鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(187)

主要地方道枕崎知覧線(霜出道路)道路改築事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鍛冶園(かじぞの)遺跡

(南九州市知覧町)

２０１６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　文

この報告書は，主要地方道枕崎知覧線（霜出道路）道路改築事業に伴って，平成２５年度から平成２６年度にかけて実施した南九州市知覧町瀬世に所在する鍛冶園遺跡の発掘調査の記録です。

鍛冶園遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭を中心とした土器や石器，竪穴住居跡などが発見され，移行期の生活を研究する上での貴重な資料を提供することとなりました。

また，中世から近世のかまど状遺構や陶磁器類の出土は，近隣に所在する川畑城跡とその周辺の集落を考える上で貴重な資料となりました。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査にあたり御協力をいただいた，南薩地域振興局土木建築課，南九州市教育委員会，関係各機関及び発掘調査・整理作業に従事された方々に厚くお礼を申し上げます。

平成２８年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　福山　徳治

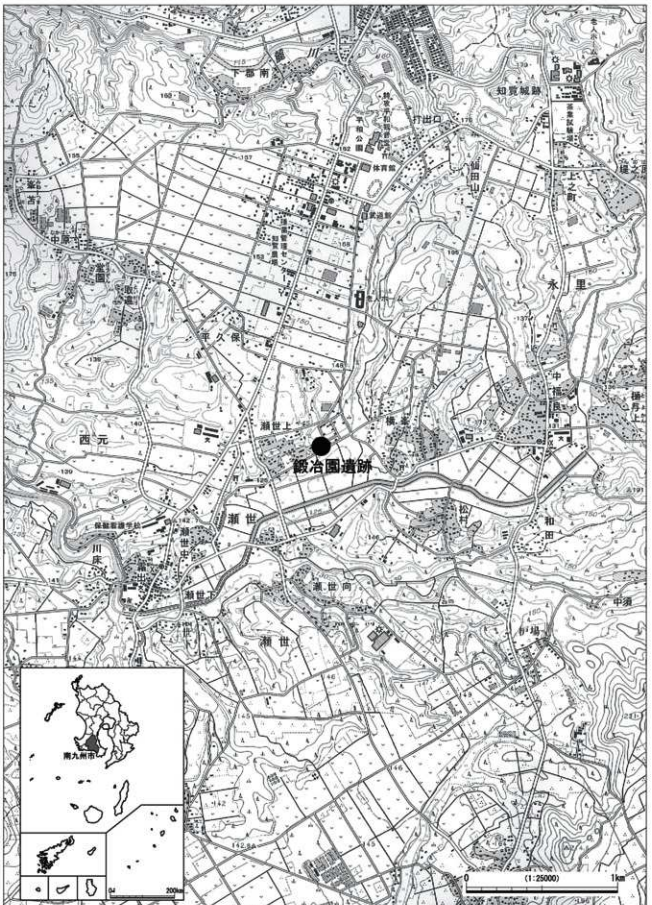
報 告 書 抄 録

ふりがな	かじぞのいせき
書名	鍛冶園遺跡
副書名	主要地方道枕崎知覧線（霜出道路）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	187
編著者名	尾川　満，本高謙治，有馬孝一
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL　0995-48-5811
発行年月日	2016年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	発掘原因
かじぞのいせき 鍛冶園遺跡	かごしまけん 鹿児島県 みなみさつましゅうし 南九州市 ちらんちょう 知覧町	223	439	31° 20' 43"	130° 25' 48"	試掘調査 20120125 本調査 20140901 ～ 20150116	1,800	主要地方道枕崎知覧線（霜出道路）道路改築事業に伴う記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍛冶園遺跡	散布地	弥生時代終末 ～ 古墳時代初頭 中世・近世	竪穴住居跡 帯状硬化面 かまど状遺構，焼土跡 土坑，ピット多数	松木薗式土器，中津野式土器 打製石鏃，磨製石鏃， 石包丁，砥石，凹み敲石 土師器，青磁，白磁 青花，瓦器	

遺跡の概要	松木薗式土器，中津野式土器など，弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての土器や石器，竪穴住居跡などの発見は当時の薩摩半島南部の生活を考える上で貴重な発見となった。また，かまど状遺構や中世から近世にかけての遺物の出土は近隣に所在する川畑城跡とその周辺集落を考える上での貴重な資料となった。



鍛冶園遺跡の位置

例　言

1　本書は，主要地方道枕崎知覧線（霜出道路）道路改築事業に伴う鍛冶園遺跡の発掘調査報告書である。
2　本遺跡は，鹿児島県南九州市知覧町瀬世に所在する。
3　発掘調査は南薩地域振興局建設部土木建築課（事業主体）から鹿児島県教育委員会が受託し，鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
4　発掘調査は平成25年度から平成26年度に実施し，整理・報告書作成作業は平成27年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。
5　掲載遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，表，図版の番号は一致する。
6　遺物注記等で用いた記号は「KJZ」である。
7　挿図の縮尺は，挿図ごとに示した。
8　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。
9　本書で使用した方位はすべて磁北である。
10　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，調査担当者が行った。
11　遺構図，遺物分布図の作成及びトレースは有馬，尾川，本高が整理作業員の協力を得て行った。
12　出土遺物の実測・トレースは，有馬，尾川，本高が作業員の協力を得て行った。
13　出土遺物の写真撮影は，辻が行った。
14　本報告書に係る自然科学分析は，株式会社　加速器分析研究所が行った。
15　本書の編集は，有馬が担当し，執筆の分担は次のとおりである。

第1章			尾川満，有馬孝一
第2章			尾川満
第3章	第1節		有馬孝一
	第2節		本高謙治
	第3節	1	有馬孝一
		2	有馬孝一
		3	有馬孝一，関明恵
第4章			文頭に記載
第5章			有馬孝一

16　本報告書に係る出土遺物及び実測図，写真等の記録は鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示，活用を図る予定である。

凡　　例

1　土器の法量の計測にあたり，現況で計測可能であったものは（　）を付さずに計測値を表記した。

2　観察表内の（　）の表記は，残存状況の良好なものについて図面上で反転復元を行い口径・底径が推測できたもの，器高については口縁からと底部からの残存高である。

3　土器実測図調整痕表示について

調整痕種		実測図表示例	留意点
ナデ	工具ナデ		・工具幅を明瞭に
ナデ	ナ　デ		・ナデ幅を明瞭に
ハケメ			・工具幅を明瞭に ・始点終点の表示 ・切り合い関係の重視
ミガキ			・ミガキ痕の重なり
指頭圧痕			・指幅の明示

4　実測スケール
○　土器は，基本１／３で記載し，一部大型のものについては１／４で記載している。
○　石器は，１／１，１／２で記載している。

5　遺物の出土状況のドット表示について
掲載遺物は土器を黒色，石器を緑色で表示，未掲載の遺物については，各時代別でグレーで表示している。

目　次

巻頭図版
序文
報告書抄録
例言
凡例
目次

第１章　発掘調査の経過…… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯…… 1
　第２節　事前調査…… 1
　第３節　本調査…… 1
　第４節　整理・報告書作成…… 3

第２章　遺跡の位置と環境…… 5
　第１節　地理的環境…… 5
　第２節　歴史的環境…… 5

第３章　調査の方法と成果…… 9
　第１節　調査の方法…… 9
　　１　調査の方法…… 9
　　２　遺構の認定と検出方法…… 9
　第２節　層序…… 10
　第３節　調査の成果…… 15
　　１　弥生・古墳時代の調査…… 15
　　(1)調査の概要 …… 15
　　(2)遺構 …… 15
　　(3)遺物 …… 29
　　２　中世・近世の調査…… 39
　　(1)調査の概要 …… 39
　　(2)遺構 …… 48
　　(3)遺物 …… 50

第４章　自然科学分析…… 55
　鍛冶園遺跡における放射性炭素年代…… 55
　鍛冶園遺跡出土炭化材の樹種…… 57

第５章　総括…… 59

挿図目次

第１図　グリッド配置図及び周辺地形 ……4
第２図　周辺遺跡位置図 ……7
第３図　基本土層図 ……10
第４図　D－３～７区西側土層断面図 ……11
第５図　C～G－２区北側土層断面図 ……12
第６図　B－３区南側，B－５区西側及びG－１・２区
　　土層断面図 ……13
第７図　グリッド配置図 ……14
第８図　弥生・古墳時代遺構配置図（S=1/400）……15
第９図　竪穴住居跡1号検出状況 ……16
第10図　竪穴住居跡1号内出土遺物 ……16
第11図　竪穴住居跡２号床面，遺物検出状況 ……17
第12図　竪穴住居跡２号内出土遺物（１） ……17
第13図　竪穴住居跡２号内出土遺物（２） ……18
第14図　竪穴住居跡２号完掘状況 ……19
第15図　竪穴住居跡３号検出状況 ……20
第16図　竪穴住居跡３号内遺物出土状況 ……21
第17図　竪穴住居跡３号内出土遺物（１） ……22
第18図　竪穴住居跡３号内出土遺物（２） ……23
第19図　帯状硬化面１検出状況 ……24
第20図　帯状硬化面２検出状況 ……25
第21図　土器集中１・２検出状況 ……26
第22図　土器集中３・４検出状況 ……27
第23図　土器集中５～７検出状況 ……28
第24図　土器集中５出土遺物（１） ……30
第25図　土器集中５出土遺物（２） ……31
第26図　土器集中１・２・４・６・７出土遺物 ……32
第27図　弥生・古墳時代遺物出土状況（１） ……33
第28図　弥生・古墳時代遺物出土状況（２） ……34
第29図　包含層出土遺物　甕（１） ……35
第30図　包含層出土遺物　甕（２） ……36
第31図　包含層出土遺物　壺（１） ……37
第32図　包含層出土遺物　壺（２） ……38
第33図　包含層出土遺物　鉢 ……39
第34図　包含層出土遺物　長頸壺，手捏土器，
　　土製品，石器 ……40
第35図　中世・近世遺構配置及び遺物出土状況 ……48
第36図　かまど状遺構１号検出状況 ……49
第37図　かまど状遺構２号・３号
　　土坑1号検出状況 ……50
第38図　焼土遺構検出状況 ……51
第39図　ピット内出土遺物 ……51
第40図　中世・近世包含層出土遺物（１） ……52
第41図　中世・近世包含層出土遺物（２） ……53

表目次

表1　周辺遺跡一覧表…… 8
表2　竪穴住居跡出土土器観察表（1）…… 21
表3　竪穴住居跡出土土器観察表（2）…… 24
表4　竪穴住居跡出土土器観察表（3）…… 25
表5　竪穴住居跡出土土器観察表（4）…… 26
表6　竪穴住居跡出土石器観察表…… 39
表7　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（1）… 39
表8　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（2）… 40
表9　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（3）… 41
表10　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（4）… 42
表11　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（5）… 43
表12　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（6）… 44
表13　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（7）… 45
表14　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（8）… 46
表15　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（9）… 47
表16　弥生・古墳時代包含層出土石器観察表 …… 47
表17　中世・近世ピット内出土遺物観察表 …… 54
表18　中世・近世包含層出土土師器観察表 …… 54
表19　中世・近世包含層出土陶磁器観察表 …… 54
表20　中世・近世包含層出土瓦器観察表 …… 54

図版目次

図版1　調査前風景及び土層断面 …… 61
図版2　弥生・古墳時代の遺構（1）…… 62
図版3　弥生・古墳時代の遺構（2）…… 63
図版4　弥生・古墳時代の遺構（3）…… 64
図版5　弥生・古墳時代の遺構（4）…… 65
図版6　中世・近世の遺構（1）…… 66
図版7　中世・近世の遺構（2）…… 67
図版8　中世・近世の遺構（3）…… 68
図版9　竪穴住居跡1号・2号内出土遺物 …… 69
図版10　竪穴住居跡3号内出土遺物（1）…… 70
図版11　竪穴住居跡3号内出土遺物（2）
及び土器集中5内出土遺物 …… 71
図版12　土器集中1・2・4～7出土遺物 …… 72
図版13　弥生・古墳時代包含層出土遺物（1）…… 73
図版14　弥生・古墳時代包含層出土遺物（2）…… 74
図版15　中世・近世包含層出土遺物（1）…… 75
図版16　中世・近世包含層出土遺物（2）…… 76

第１章　発掘調査の経過

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，鹿児島県土木部道路建設課（南薩地域振興局　建設部土木建築課・以下道路建設課）は，主要地方道枕崎知覧線（霜出道路）道路改築事業を計画し，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下，文化財課）に照会した。

この計画に伴い，事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，道路建設課・文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）の三者で協議を行い，埋蔵文化財の保護と事業推進の調整を図るため，事業着手前に分布調査，試掘調査を実施することになった。

これを受けて県文化財課が，平成21年度及び平成23年度に分布調査を実施したところ，事業区域内に高付遺跡，輪曲遺跡，牧野遺跡，金山水車跡・精錬所跡，知覧飛行場跡等が所在することが判明した。

この結果をもとに，道路建設課・県文化財課・県立埋蔵文化財センター（以下，埋文センター）の三者で協議した結果，対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において試掘調査を実施することとした。

鍛冶園遺跡の試掘調査は，平成26年２月21日に県文化財課が実施した。その結果弥生・古墳時代の遺物を確認し，調査対象面積を600㎡とした。

そこで，再度三者で協議を行い，鍛冶園遺跡について本調査を実施することとなった。調査は埋文センターが担当し，平成26年９月１日～平成27年１月16日（実働72日間）にかけて実施した。調査で遺跡の範囲が当初よりも1,200㎡拡大することがわかり，拡大部分も含めた1,800㎡の調査をした。

第２節　事前調査

試掘調査

調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
　南薩地域振興局建設部土木建築課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県教育庁文化財課
　課　長　宇都　法道
調査企画　鹿児島県教育庁文化財課
　課長補佐謹
　企画助成係長　喜平　和隆
　主任文化財主事兼
　埋蔵文化財係長　前迫　亮一
調査担当　鹿児島県教育庁文化財課
　文化財主事　中村　和美
　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　文化財主事　光永　誠

第３節　本調査

本遺跡の本調査を，平成26年９月１日～平成27年１月16日の72日間にわたり実施した。

調査体制

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
　南薩地域振興局建設部土木建築課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　所　長　井ノ上秀文
調査企画　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　次長兼総務課長　中島　治
　調査課長兼
　南の縄文調査室長　前迫　亮一
　調査課第二調査係
　文化財主事兼係長　今村　敏照
調査担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　文化財主事　有馬　孝一
　文化財主事　立神　倫史
事務担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
　主幹兼総務係長　有馬　博文

調査の過程（日誌抄）

発掘調査の過程を日誌抄をもってかえる。

平成26年度　本調査（H26.9.１～H27.1.16）

・H26.9.1～H26.9.5
　表土剥ぎ
　前迫課長現地指導（２日）

・H26.9.8～H26.9.12
　表土剥ぎ，排土処理
　環境整備，グリッド杭打ち
　精査
　C～G-4区　Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ

・H26.9.15～H26.9.19

D･E-3･4区　Ⅳ層掘り下げ・遺物取り上げ
B-4･5区　Ⅲ層掘り下げ
C･E-2区　表土剥ぎ
排土処理

・H26.9.22～H26.9.26
D-4区　ピット検出状況写真撮影
C･E-2区　表土剥ぎ
B-4･5区　Ⅲ･Ⅳ層掘り下げ
D～F-1･2区 壁面清掃
排土処理

・H26.9.29～H26.10.3
D-4区　竈状遺構実測，写真撮影
前迫課長現地指導，今村係長現地調査（1日）

・H26.10.6～H26.10.10
B-4･5区　Ⅲ･Ⅳ層掘り下げ
B-4･5区　Ⅳ層遺物出土状況写真撮影，遺物取り上げ
D-3～5区　ピット掘り下げ，実測
E･F-1･2区　Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ
E･F-1･2区　遺物出土状況写真撮影
かまど状遺構1･2号検出状況写真撮影
かまど状遺構1～3号，土坑実測，半裁状況写真撮影，掘り下げ
かまど状遺構1号完掘状況写真撮影
かまど状遺構2号構築物崩壊状況写真撮影
かまど状遺構3号半裁状況写真撮影
土坑半裁及び完掘状況写真撮影
かまど状遺構3号実測図作成
土坑実測図作成
ピット完掘状況写真撮影，実測図作成
排土処理
井ノ上所長，前迫課長現地指導（6日）

・H26.10.13～H26.10.17
F･G-1･2区　B-4･5区　Ⅳ層掘り下げ
F･G-1･2区　遺物取り上げ
D･E-3･4区　コンタ図作成，ピット実測
C-5区　ピット掘り下げ，完掘状況写真撮影，実測
F･G-1･2区　遺物取り上げ
F･G-1･2区　帯状硬化面断面状況写真撮影，掘り下げ
B-5区　ピット写真撮影
D-4･5区　西側表土剥ぎ
F･G-1～3区 遺物取り上げ
F･G-1～3区 帯状硬化面完掘状況写真撮影
E～G-1～3区 Ⅳ層掘り下げ
かまど状遺構2号完掘状況写真撮影
かまど状遺構3号写真撮影
環境整備
排土処理
南九州市発掘作業員，上田係長（南九州市文化財係）来跡（17日）

・H26.10.20～H26.10.24
E～G-1･2区 Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
B-4･5区　Ⅳ層掘り下げ
D･E-2区　Ⅳ層掘り下げ
B-4区　コンタ図作成，土層断面実測，写真撮影
D-4区　Ⅲ･Ⅳ層掘り下げ，ピット群検出状況写真撮影
D･E-2区　Ⅳ層掘り下げ
土器集中１実測
排土処理
安全パトロール（21日）
今村係長現地調査（23日）

・H26.10.27～H26.10.31
D-4･5区　Ⅳ層掘り下げ
G-1･2区　Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
D･E-2区　遺物取り上げ
D～G-1･2区 Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
D-3･4区　ピット群実測
土器集中２～４実測
排土処理

・H26.11.3～H26.11.7
D-3･4区　Ⅳ層掘り下げ
G-1･2区　Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ
F･G-1･2区　Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
土器集中５実測
溝状遺構検出状況写真撮影（1号竪穴住居跡と切り合った自然流路と判明）
1号竪穴住居跡（SI01）炭化物写真撮影及び取り上げ
1号竪穴住居跡（SI01）掘り下げ
排土処理
前迫課長現地指導，今村係長現地調査（4日）
井ノ上所長，前迫課長現地指導

・H26.11.10～H26.11.14
G-1区　1号竪穴住居跡（SI01）掘り下げ
断面写真撮影，実測，遺物取り上げ
土器集中５～７実測
土器洗い

・H26.11.17～H26.11.22

D～G-2区　土層断面写真撮影及び実測
G-1区　1号竪穴住居（S101）実測
F-1区　2号竪穴住居（S102）掘り下げ，遺物取り上げ
F-1区　2号竪穴住居（S102）平面図，断面図作成
F-1区　2号竪穴住居（S102）床面遺物出土状況写真撮影
土器集中６遺物取り上げ
金山水車跡現地説明会対応

・H26.11.24～H26.11.28
F-1区　2号竪穴住居（S102）掘り下げ
F-1区　2号竪穴住居（S102）遺物出土状況写真撮影
F-1区　2号竪穴住居（S102）内土器集中８実測，遺物取り上げ
F-1区　2号竪穴住居（S102）完掘，完掘写真撮影
D～G-1・2区
調査区東壁土層断面実測
完掘，完掘後埋め戻し

・H26.12.1～H26.12.5
C-4・5区　表土剥ぎ，Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ

・H26.12.8～H26.12.12
C-4区　Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
C-4・5区　Ⅳ層掘り下げ，精査，ピット検出状況写真撮影，平面実測
排土処理，埋め戻し

・H26.12.15～H26.12.19
C-4・5区　Ⅳ層掘り下げ
C-4・5区　ピット検出状況写真撮影，ピット掘り下げ，実測，完掘写真撮影，完掘実測
C-4・5区　帯状硬化面検出状況写真撮影，実測，掘り下げ，完掘，実測，完掘写真撮影
C-4・5区　コンタ図作成
排土処理，埋め戻し
安全パトロール（16日）
井ノ上所長現地指導（19日）

・H26.12.22～H26.12.25
C-4・5区　帯状硬化面実測，完掘
埋め戻し

・H27.1.6～H27.1.9
C-4・5区　ピット，硬化面実測
B～G-3区　表土剥ぎ，Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
C-3区　3号住居検出状況写真撮影，掘り下げ
3号住居遺物出土状況写真撮影，取り上げ
排土処理

・H27.1.13～H27.1.16
C～E-3区　Ⅳ層掘り下げ，遺物取り上げ
C～E-3区　ピット掘り下げ，実測
C-3区　3号住居　掘り下げ，埋土断面写真撮影遺物取り上げ，床面検出状況写真撮影，床面及び貼床掘り下げ，完掘写真撮影，実測
排土処理

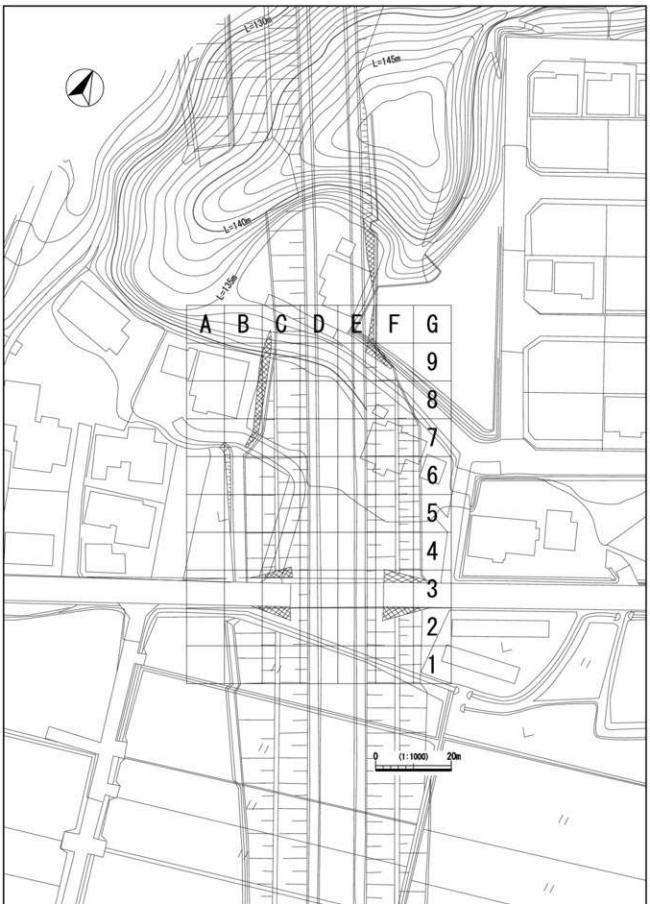
第４節　整理・報告書作成

本報告書刊行に伴う整理・報告書作成作業は，平成27年４月13日～平成28年３月４日にかけて鹿児島県立埋蔵文化財センターで行った。

出土遺物の水洗い，注記，遺構内遺物と包含層遺物の仕分け，遺物の実測・拓本，図面のトレース・レイアウトや原稿執筆等の編集作業を行った。整理・報告書作成作業に関する調査体制は以下のとおり。

作成体制（平成27年度）

事業主体　鹿児島県土木部道路建設課
南薩地域振興局建設部土木建築課
調査主体　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課
調査統括　鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　福山　徳治
調査企画　鹿児島県立埋蔵文化財センター
次長兼調査課長　前迫　亮一
総務課長　有馬　博文
第二調査係長　今村　敏照
調査担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
文化財主事　有馬　孝一
文化財主事　尾川　満
文化財主事　本髙　謙治
事務担当　鹿児島県立埋蔵文化財センター
総務係長　脇野　幸一
報告書作成指導委員会　平成27年11月27日
前迫次長ほか６名
報告書作成検討委員会
平成27年11月30日
福山所長ほか７名



第1図　グリッド配置図及び周辺地形

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

南九州市は，平成19年12月１日に知覧町・頴娃町・川辺町が合併して誕生した。人口約4万2千人の農業地帯である。東西約22㎞で南北約30㎞，総面積は357．85㎢で県全体の約4％を占める。東は指宿市，西は枕崎市・南さつま市，北は鹿児島市に接し，薩摩半島南部の地理的中心に位置する。南は約20㎞の海岸線が東シナ海に面する。

旧知覧町の地形は大略，北方山岳部より南方にかけて緩やかな傾斜が続いている。北東部には多数の連山があり，これらは川辺に連なる山岳群の余脈の連続によるもので，約400mから500m前後の小山岳が多く，白岳596mや知覧麓の借景をなす母ケ岳517mもその代表である。これらの山岳部の基盤となっているのは，中生代の四万十層群である。知覧北部の麓川沿いの小盆地あるいは台地上ではこれらの露出を各所に見ることができる。

西部および南部では，姶良カルデラ噴出物（シラス）の層がまわりを囲むようにしている。そして低地には沖積層が広がっている。これと類似する地形が旧川辺町・旧加世田市にも見られることから，その成因は広く南薩地方の基盤構成と大きくつながりがあると考えられている。

旧知覧町は，北高南低の地形から山地，台地，盆地，海岸に大別できる。その基底をなすものは主に火成岩類であるが，北東部山地は火成岩と水成層（四万十層）が混在している。また，台地はシラスの上に新期ローム の堆積したもので，盆地は火成岩類の上に堆積した沖積層である。さらに南部海岸は阿多カルデラの溶結凝灰岩が主流を占めている。

四万十層を基盤とする山地は西方と南方に向かって低くなり，知覧の中部地区においては次第にシラス台地の下にはいり永里あたりを境に見られなくなる。台地面には赤石，大隅岳などの古期火山岩山地があり，金・銀の岩脈が見られる。四万十層は白亜紀のものと推定され，この層には一般に粘板岩・頁岩が多く，続いて砂岩なども見られる。南部台地は阿多溶結凝灰岩上にシラスの重なりがあったものと思われるが，大部分は流出しており，かわりに凝灰岩上に新期火山灰の堆積が見られる。

凝灰岩上に新期の堆積層が見られるが，その堆積土は浅い。周辺には現在も稼業している金鉱床のある赤石鉱山がある。この鉱床の岩体は山頂露頭部より開発された下底100mの間は，すべて珪化岩によりできている。珪化岩の原岩は主に両輝石安山岩等と推定されている。

鍛冶園遺跡は，鹿児島県南九州市知覧町瀬世に所在する。遺跡は，標高約140mの台地上に位置しており，地形を詳細にみると小河川が形成した段丘堀部にあたる。遺跡の南側には万之瀬川の支流，林川が流れており水田が広がり，遺跡北側の台地上には，知覧飛行場跡が所在し，西側には川畑城跡，東側には三本松遺跡，南東寄りの林川脇に横峰遺跡が存在する。

第２節　歴史的環境

旧知覧町における先史時代の研究は町の出身だった医師，寺師見國氏をはじめ，飯野武夫氏，野田昇平氏，上之覚蔵氏，谷川静夫氏，折田直実氏らの手によって積極的に行われ，鹿児島県考古学会の草分けとして活躍された。これらの方々は『県史跡天然記念物調査報告書』等の関係諸雑誌に町内の遺跡を紹介されている。その中には野田昇平氏による昭和17年に刊行された『知覧町上代遺跡調査報告書』等もある。

鹿児島県の縄文時代早期土器の標識土器として知られる石坂式土器は旧知覧中学校跡地の石灰（ノ）上遺跡から発見された土器である。この遺跡は昭和28年に，当時玉龍高校教諭，河口貞徳氏と谷山高校教諭，河野治雄氏らによって，町内ではじめて学術発掘調査が行われた。その成果は「南九州の条痕文土器」『石器時代』第1号に発表され注目された。

このように学史に残る遺跡は寺師見國氏によって発見されたのを契機としている。今日，遺跡は特別養護老人施設「憩いの里」の西側にわずかに残存し，平成5年には地層中から旧石器時代の遺物（細石刃・細石核）等も発見されている。

昭和29年には，川辺信夫氏の報告を受けて河口貞徳氏が永野遺跡の発掘調査を手がけている。出土遺物には，円筒・角筒の貝殻条痕文土器（前平式土器）等が見られ，その成果については「鹿児島県における貝殻条痕土器について」『鹿児島県考古学会紀要』四に報告されている。翌年の昭和30年には和田前遺跡の発掘調査が行われ石坂式土器や押型文土器，撚糸文系塞ノ神式土器等が発見されている。

続く昭和31年に佐多純義氏らによって射手園遺跡の発掘調査が行われ，曽畑式土器や岩崎下層式土器など縄文時代前期から中期にかけての土器などが発見されている。これら河口貞徳氏らの知覧での学術調査は，南九州縄文土器の型式編年確立の一翼を担った。さらに河野治雄氏は町内の遺跡をくまなく踏査し『知覧文化』第18号並びに『前知覧町郷土誌』に調査成果を発表された。これら先学の研究成果の蓄積に基づいて，近年の発掘調査実施へとつながっている。

昭和58年から開発に伴う緊急調査が行われ，東別府の永野遺跡，大隅の登立・下水洗迫遺跡，南別府遺跡，林

川遺跡，堤之原遺跡と発掘され，そして，遺跡の報告書として刊行された。

平成5年には，知覧城跡約24haが県内では昭和20年以後はじめての山城跡の国指定史跡となっている。平成8年から始まった厚地松山製鉄遺跡発掘調査は，県内では初めての江戸時代とわかる製鉄炉と鍛冶炉の発見と本格的な製鉄遺跡として注目を集めた。そして，平成14年に県指定史跡となった。平成26年に発掘調査された金山水車跡では，赤石鉱山の金（銀）鉱石を製錬するために設置され，明治末期から昭和初期にかけて稼働していた宮内鉱山轟製錬所の水車跡やポットホールが確認された。この金山水車跡は，上野原遺跡以来，本県で2例目となる現地保存が決定した。

平成13年現在，旧知覧町内で確認されている遺跡数は約180カ所，旧石器時代から近現代にわたる幅広い時代におよんでいる。中でも縄文時代の遺跡数は多く，78カ所が確認されている。また，石塔や河川にある井堰・石橋，それに第二次世界大戦時の給水塔や防空壕，倉庫などの近現代の遺跡なども含めると200カ所を超えると推定される。いずれも1カ所の遺跡から複数の時代の出土品や施設の跡が発見されることから，条件の整った環境のよい場所で連綿と人間生活が営まれていたことがわかる。

本町で確認されている旧石器時代の遺跡は登立遺跡と石坂（ノ）上遺跡がある。登立遺跡は，昭和16年ごろから石器や土器が採集されていて，遺跡であることが周知されていた。遺跡は字登立と字下水洗迫一帯の広範囲に及ぶ。昭和63年と平成11年に発掘調査が実施されている。その結果，本遺跡の基盤をなす阿多溶結凝灰岩の上層からメノウ製や黒曜石製の細石刃・細石核をはじめ尖頭器，小形ナイフ形石器等旧石器時代後期の石器の数々が出土した。中でもナイフ形石器は数十点出土しており，この時期の文化を知る貴重な資料となった。そのほか石核，ハンマーストーン，パンチ，砥石状石器，礫器なども出土している。石のなかには，熊本県阿蘇産と思われるものも数点検出され注目される。石坂（ノ）上遺跡は，鹿児島県の縄文時代早期を代表する遺跡であるが，平成4年に露呈したチョコレート色の地層の断面から細石刃と細石核が採集されている。

縄文時代については，早期の遺跡が県内でも突出して多く旧志布志町，旧川辺町と並ぶ。現在確認されている78カ所のうち48カ所が縄文早期の遺跡である。特に前原遺跡からは，前平式土器，石坂式土器，押型文土器，轟Ⅰ式土器といった早期の土器等の遺物が出土しており，一帯の台地には霧島市上野原遺跡に匹敵する遺跡の存在の可能性が推察できる。これら早期の遺跡以外にも射手園遺跡などの前期の遺跡，西平式土器の精製無文の土器が多く出土した大園遺跡などの後期の遺跡もある。しかし，突出した早期の遺跡の多さに対して，前期・中期・後期・晩期の遺跡数は少ない。これらの時代の遺跡はいまだ調査の少ない台地以外の低地や河川沿い，水田等に存在している可能性も想定され，今後の調査に期待がかかる。

弥生時代については，八反畑，厚地前田，豊玉姫神社前，池ノ比良の諸遺跡がある。このうち厚地前田遺跡と八反畑遺跡，豊玉姫神社前では，石包丁が発見されている。

古墳時代については，墳丘をもつ古墳の発見はまだないが，この時期の遺跡としては，44カ所確認され，縄文時代の遺跡に次ぐ多さである。古墳時代の遺跡は，特に厚地川沿いや麓川沿いの楠元遺跡，永里川沿いを中心とした一帯に見られる。平成5年に発掘調査された大堀迫遺跡では，この時期の住居跡一軒が発見されている。

参考文献
知覧町教育委員会　1997　『西垂水（山窪）遺跡』知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
知覧町教育委員会　2001　『登立遺跡』知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
南九州市教育委員会　2009　『仲覚兵衛屋敷跡』南九州市埋蔵文化財発掘調査概要報告書(2)
知覧町立図書館 第40号　『知覧文化』

0
(1:25000)
1km
瀬世
西元
川床
知覧城跡
18
出口
仙田山
上之町
永
中原
平久保
瀬底
松村
三田
中頭
下原
山之口
瀬世中
瀬世向
瀬世下
瀬世上
瀬世原
瀬世川
瀬世口
瀬世山
瀬世田
瀬世内
瀬世東
瀬世西
瀬世南
瀬世北
瀬世前
瀬世後
瀬世裏
瀬世表
瀬世奥
瀬世手
瀬世足
瀬世頭
瀬世尾
瀬世根
瀬世元
瀬世末
瀬世本
瀬世新
瀬世古
瀬世今
瀬世昔
瀬世現
瀬世未
瀬世来
瀬世過
瀬世去
瀬世在
瀬世無
瀬世有
瀬世空
瀬世海
瀬世山
瀬世川
瀬世田
瀬世原
瀬世野
瀬世林
瀬世森
瀬世谷
瀬世峰
瀬世坂
瀬世道
瀬世橋
瀬世駅
瀬世町
瀬世村
瀬世市
瀬世県
瀬世国
瀬世州
瀬世島
瀬世半
瀬世全
瀬世部
瀬世分
瀬世合
瀬世別
瀬世同
瀬世異
瀬世変
瀬世化
瀬世生
瀬世死
瀬世活
瀬世動
瀬世静
瀬世速
瀬世遅
瀬世早
瀬世晩
瀬世朝
瀬世昼
瀬世夜
瀬世夕
瀬世暁
瀬世春
瀬世夏
瀬世秋
瀬世冬
瀬世年
瀬世月
瀬世日
瀬世週
瀬世時
瀬世分
瀬世秒
瀬世瞬
瀬世間
瀬世刻
瀬世期
瀬世限
瀬世終
瀬世始
瀬世続
瀬世断
瀬世絶
瀬世連
瀬世結
瀬世束
瀬世縛
瀬世解
瀬世放
瀬世捨
瀬世拾
瀬世得
瀬世失
瀬世勝
瀬世負
瀬世争
瀬世戦
瀬世和
瀬世平
瀬世安
瀬世危
瀬世険
瀬世易
瀬世難
瀬世簡
瀬世単
瀬世複
瀬世雑
瀬世純
瀬世粋
瀬世混
瀬世合
瀬世成
瀬世分
瀬世解
瀬世析
瀬世統
瀬世計
瀬世算
瀬世数
瀬世量
瀬世質
瀬世性
瀬世格
瀬世品
瀬世物
瀬世体
瀬世心
瀬世魂
瀬世霊
瀬世神
瀬世仏
瀬世教
瀬世宗
瀬世派
瀬世流
瀬世道
瀬世術
瀬世技
瀬世法
瀬世則
瀬世規
瀬世律
瀬世制
瀬世約
瀬世束
瀬世縛
瀬世解
瀬世放
瀬世捨
瀬世拾
瀬世得
瀬世失
瀬世勝
瀬世負
瀬世争
瀬世戦
瀬世和
瀬世平
瀬世安
瀬世危
瀬世険
瀬世易
瀬世難
瀬世簡
瀬世単
瀬世複
瀬世雑
瀬世純
瀬世粋
瀬世混
瀬世合
瀬世成
瀬世分
瀬世解
瀬世析
瀬世統
瀬世計
瀬世算
瀬世数
瀬世量
瀬世質
瀬世性
瀬世格
瀬世品
瀬世物
瀬世体
瀬世心
瀬世魂
瀬世霊
瀬世神
瀬世仏
瀬世教
瀬世宗
瀬世派
瀬世流
瀬世道
瀬世術
瀬世技
瀬世法
瀬世則
瀬世規
瀬世律
瀬世制
瀬世約

第２図　周辺遺跡位置図

表１　周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	遺跡の時代	主な遺物	備考
1	衣刃ヶ城跡	鹿児島県南九州市川辺町小野二反尾轟	台地	平安, 中世	-	-
2	猿山陣跡	鹿児島県南九州市川辺町宮猿山	台地	中世	-	-
3	猿山古陣跡	鹿児島県南九州市知覧町西元陣の比良	山地	縄文, 弥生, 古墳, 古代, 中世	古陣跡「古陣神社仏閣旧記調帳」より	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
4	露勢	鹿児島県南九州市知覧町郡露宿	台地		須恵器, 土器, 矢じり, 青磁	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
5	牧野下	鹿児島県南九州市知覧町郡牧野下	台地	縄文（早期）, 弥生, 古墳, 古代, 中世, 近世	-	-
6	牧野（東）	鹿児島県南九州市知覧町郡牧野（東）	台地	中世	青磁, 白磁, 土師器	H5.5発見
7	安田	鹿児島県南九州市知覧町下郡北安田	台地	縄文（早期）	-	-
8	小原	鹿児島県南九州市知覧町郡小原	台地	古墳	成川式土器	H6.10県サンオーシャンリゾート分布調査
9	豊玉姫神社	鹿児島県南九州市知覧町郡宮園	台地	弥生	石包丁	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
10	鮫岸田	鹿児島県南九州市知覧町郡鮫岸田	平地	古墳	弥生土器, 土師器	耕地整備中発見　知覧町郷土誌
11	竹崎	鹿児島県南九州市知覧町郡竹崎	台地	中世, 近世	青磁, 白磁, 土師器, 陶器	H5.5発見
12	宮東	鹿児島県南九州市知覧町郡宮東	台地	奈良, 平安, 中世	土器、土師器、青磁、須恵器	H5.5発見
13	楠元A	鹿児島県南九州市知覧町郡楠元（前田製材所付近）	平地	縄文, 弥生, 古墳	縄文土器？弥生土器, 土師器(昭和17年調査)	昭和37年上之園覚・川野治雄試掘調査　知覧町郷土誌S57年
14	白川・厚村	鹿児島県南九州市知覧町郡白川・厚村	平地	古墳, 中世	成川式土器, 青磁, 須恵器	H6.10県サンオーシャンリゾート分布調査
15	大坪平	鹿児島県南九州市知覧町郡大坪平	台地	弥生, 古墳	弥生土器, 土師器, 須恵器	知覧町郷土誌S57年
16	中尾原	鹿児島県南九州市知覧町郡中尾原	台地	弥生, 古墳	弥生土器, 土師器, 須恵器	知覧町郷土誌S57年
17	石坂上	鹿児島県南九州市知覧町永里石坂ノ上	台地	旧石器, 縄文（早期）	岩崎上層式、土製滑車、型耳飾（耳栓）、土師器、須恵器	住居址、石器時代1、日本考古学年報7
18	知覧城跡	鹿児島県南九州市知覧町永里知覧城内	台地	弥生, 古墳, 中世, 近現代	弥生土器, 土師器, 青磁, 白磁, 空堀, 城跡	知覧町郷土誌S57年, H4試掘調査
19	大堀迫	鹿児島県南九州市知覧町郡大堀迫	台地	縄文（早期）, 古墳	押型文土器, 成川式, 陶磁器, 住居跡, 石包丁	H3.9発掘調査
20	打出口	鹿児島県南九州市知覧町郡打出口	台地	古墳, 中世	成川式(高杯), 青磁, 土師器	知覧城の外郭, 伊豆屋敷と言われる
21	打出口西	鹿児島県南九州市知覧町郡打出口西	台地	縄文（早期）, 弥生	石坂、前平、塞ノ神、曽畑式土器	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
22	平	鹿児島県南九州市知覧町郡平	台地	中世, 近世	染付, 陶器	H5.5発見
23	古城跡	鹿児島県南九州市知覧町郡古城	台地	中世	空堀, 土塁	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
24	天神山	鹿児島県南九州市知覧町郡天神山	台地	縄文、弥生、古墳	縄文土器、弥生土器、土師器	日本考古学年報9, 昭和31年発掘
25	小坂ノ上	鹿児島県南九州市知覧町郡小坂ノ上	台地	古墳	須恵器、壺形土器	畿内系須恵器合子坏蓋
26	中登り	鹿児島県南九州市知覧町郡中登り	台地	古墳	成川式土器	H6.10県サンオーシャンリゾート分布調査
27	霜月田	鹿児島県南九州市知覧町郡霜月田	台地	縄文（晩期）, 弥生, 古墳	土器	H5.5発見
28	下郡（射手園）	鹿児島県南九州市知覧町下郡射手園	平地	縄文（前期, 後期）, 弥生	轟式指痕, 曽畑式, 春日式, 岩崎上層式, 塞ノ神, 御領式, 石鏃, 石匙等	昭和31年河口貞徳・佐多純義発掘, 日本考古学年報9
29	有村	鹿児島県南九州市知覧町郡有村	台地	中世	青磁(稜花皿)	H5.5発見
30	地頭所	鹿児島県南九州市知覧町郡地頭所	台地	古墳, 奈良, 平安, 近世	陶器、染付	-
31	峯苫	鹿児島県南九州市知覧町西元峯苫	台地	弥生	弥生土器(壺型)	知覧町郷土誌S57年
32	中原鉄生産関連遺跡	鹿児島県南九州市知覧町西元前畑西・前畑東・家歯古屋敷	台地	近世	陶磁器, 鉄製品, 羽口, 製鉄滓, 鍛冶滓	江戸時代後半の農村集落内(台地上)における製鉄鍛冶に関する遺跡
33	陸軍知覧飛行場跡	鹿児島県南九州市知覧町郡木佐貫原	台地	近現代 昭和	-	平成26年27年度調査
34	新屋敷	鹿児島県南九州市知覧町郡新屋敷	台地	中世, 近世	白磁, 染付, 陶器	H5.5発見
35	池ノ比良	鹿児島県南九州市知覧町郡池ノ比良	台地	弥生（中期）	-	-
36	堀之内	鹿児島県南九州市知覧町郡堀之内	台地	中世, 近世	染付	-
37	中宿	鹿児島県南九州市知覧町仙田山	台地	中世, 近世	-	-
38	堤之原	鹿児島県南九州市知覧町永里堤之原	台地	縄文、弥生、古墳,	塞ノ神式、曽畑式、弥生土器、土師器	-
39	松ノ原	鹿児島県南九州市知覧町永里松ノ原	台地	縄文（早期）	石坂式、塞ノ神式土器	-
40	オナダビラ	鹿児島県南九州市知覧町永里オナダビラ	台地	古墳	弥生土器	-
41	柴立城跡	鹿児島県南九州市知覧町永里柴立（白石神社内）	台地	中世	土塁, 空堀	良好な土器残存
42	寺坂	鹿児島県南九州市知覧町永里寺坂	台地	縄文	石匙	知覧町郷土誌S57年
43	塚ノ越	鹿児島県南九州市知覧町永里塚之越	丘陵	縄文, 古墳	苦浜式、土師器、壺型土器	-
44	三本松	鹿児島県南九州市知覧町永里三本松	台地	縄文（早期）	石坂式、塞ノ神式土器、貝殻条痕、石鏃	-
45	黒木山	鹿児島県南九州市知覧町郡黒木山	台地	近世	染付, 陶器	H5.5発見
46	東野口	鹿児島県南九州市知覧町瀬世東野口	台地	縄文（早期）	-	-
47	川畑城跡	鹿児島県南九州市知覧町瀬世川畑内園	台地	中世	空堀、郭	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
48	徳原	鹿児島県南九州市知覧町西元徳原	台地	縄文（早期）	石坂式、前平式、石鏃	-
49	小谷原	鹿児島県南九州市知覧町西元小谷原	台地	縄文（早期）	吉田式土器	-
50	中村	鹿児島県南九州市知覧町瀬世中村（ヤセダン坂）	台地	縄文（早期）, 弥生	-	-
51	立山原東	鹿児島県南九州市知覧町西元立山原東	-	縄文	-	-
52	東村	鹿児島県南九州市知覧町西元東村	-	中世, 近世	-	-
53	瀬世向江	鹿児島県南九州市知覧町瀬世向江	台地	縄文（早期）	石坂式、前平式、吉田式、押型式	H6.10県サンオーシャンリゾート分布調査
54	横峰	鹿児島県南九州市知覧町永里横峯	台地	縄文（早期）, 弥生	押型文、吉田式、石鏃、弥生土器	-
55	松村	鹿児島県南九州市知覧町永里松村	台地	縄文（早期）	吉田式	-
56	園田城跡	鹿児島県南九州市知覧町永里城ヶ尾	台地	中世, 近世	空堀、郭	鹿児島県市町村別遺跡地名表S60年
57	和田前	鹿児島県南九州市知覧町永里和田前	台地	縄文（早期）	前平式、塞ノ神式、押型文土器、石鏃、石匙	-
58	中瀬西	鹿児島県南九州市知覧町東別府中瀬西	台地	縄文（早期）	塞ノ神式土器	-
59	東折口	鹿児島県南九州市知覧町東別府東折口	台地	古墳	-	-
60	二本松	鹿児島県南九州市知覧町東別府二本松	台地	縄文, 古墳	-	-
61	立野	鹿児島県南九州市知覧町東別府浮辺西ノ原	台地	縄文（早期）	石坂式、塞ノ神式土器	知覧町郷土誌S57年
62	西新籾	鹿児島県南九州市知覧町東別府西新籾	台地	縄文（早期）	塞ノ神式土器	知覧町郷土誌S57年
63	塗木	鹿児島県南九州市知覧町塩屋（菊永）御竈	台地	中世	石坂式、塞ノ神式土器	-
64	鍛冶園	鹿児島県南九州市知覧町瀬世鍛冶園	台地	弥生時代, 古墳時代, 中世, 近世	松木薗式、中津野式土器、石包丁	-

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１　調査の方法

平成25年度に行われた確認調査を受けて，平成26年度に本調査を行った。調査区の設定は，遺跡全体をカバーできるように工事用基準杭No317（世界測地系座標X-183285.907 Y-54222.911）とNo318+16（世界測地系座標X-183303.012 Y-54212.547）を結んだ線，及びその延長線を中心に設定した。具体的には南側から北側に向かって，１・２・３・・・，西側から東側へA，B，C・・・，と調査区割を設定した。

発掘調査は平成26年９月１日から平成27年１月16日までの作業員実働72日間で実施した。

調査の方法は重機（バックホー）によってⅡ層までの表土を除去した後，ジョレンや山鍬，ねじり鎌等を使用して人力での掘り下げを行った。包含層出土の遺物は出土状況の写真撮影を行ったのち，残存状況良好なものについては取上番号を付してトータルステーションにて座標及び標高を記録し，その他については，層位ごとのグリッド一括で取り上げを行った。

また層の堆積状況を確認しながらⅢ・Ⅳ層を掘り進め，Ⅳ層上面，Ｖ層（灰コラ）上面で遺構検出のための精査を実施し，また，Ⅳ層掘り下げ途中でわずかに色調の異なるピット状の痕跡が見られたため，Ⅳ層途中でも遺構検出の精査を実施し，遺構の有無の確認を行い，遺構の認定を行った。

各遺構は検出状況の写真撮影，図面作成を行った後，遺構の状況に応じて，埋土観察用ベルトを残し掘り下げを行う，半截して掘り下げを行う等の対応をした。

掘り下げ中に出土した遺物は出土状況の記録，取り上げを行い，埋土状況を写真撮影，記録した後，完掘し，図面を完成し完掘状況の写真撮影を行った。

遺構内出土遺物は，床着と思われるものは実測図面中に記入記録，もしくは別図にて記録を行った。床面から浮き上がったものは，トータルステーションにて座標及び標高を記録し取り上げを行った。

調査の結果，調査区の北側はC-5区～G-3区付近を境にアカホヤ火山灰層まで削平を受け遺物包含層は残存していないことが判明した。

また，調査を進めていく中で，現民家進入路の下には遺構・遺物が残存していること，市道部分については工事の工法上包含層を掘削することになることが判明した。そのため迂回路敷設部分を優先的に調査することとし，迂回路完成後，当該部分の調査を行うこととした。

調査区南側の調査を行った結果調査区南西側に深い自然の谷が存在することが判明し，調査区南西端ではⅣ層途中から湧水が始まり，排水等しても調査が困難だったため，Ⅳ層途中で掘り下げを中止した。

２　遺構の認定と検出方法

検出された主な遺構はⅣ層中位とⅤ層上面に見られた。Ⅳ層中位では黒色土を埋土とする径20cm～40cmの円形の掘り込みが多数検出され，ピットと判断した。また，焼土粒，粘土塊が混ざる黒褐色の埋土をもつ長楕円形を呈する掘り込みの端部に赤褐色に焼けた粘土塊が弧状に残存する掘り込み２基，弧状の粘土塊の残存は見られないが，赤褐色に焼けた粒状の粘土塊が混じる埋土の長楕円形を呈する掘り込み１基が検出され，これらはかまど状遺構と認定した。さらに，径70cm程度の黒色の埋土に焼土粒が多量に混入する円形の掘り込みに連続して焼土粒がまばらに広がる範囲が検出され，これは焼土跡と判断した。以上は中近世に該当する遺構と判断した。

この他に巾40cm前後で長さ９ｍ程度，巾80cm前後で長さ12.6ｍ程度の周囲とわずかに色調の違う黒色土を埋土とし，帯状に硬化した遺構を検出した。これは帯状硬化面と判断した。

Ⅴ層では灰コラ混じりの暗茶褐色硬質土を埋土とする長軸，短軸ともに３ｍ前後の方形を呈する掘り込みが３基検出された。２基は方形の主体部西側に１ｍ程の張り出しが２カ所認められ，１基は張り出しは確認できず，調査区外へ広がりをみせた。

張り出しをもつ掘り込みは同一方向を向いている。これらは竪穴住居跡と認定した。検出された順番でSI-１号，SI-２号，SI-３号と名称を付した。以上は弥生時代から古墳時代に該当する遺構と判断した。

遺構の帰属する時代を決定する際には，遺構を検出した層，埋土の状況，遺構の形態，遺構内出土遺物などの情報を総合的に検討し判断した。

第２節　層序

鍛冶園遺跡の基本層序は次のとおりである。

Ⅰ	Ⅰ層　表土
Ⅱ	Ⅱ層　黒色土（カクラン）
Ⅲ	Ⅲ層　黒褐色土
Ⅳ	Ⅳa層　硬質黒褐色土 Ⅳb層　硬質黒褐色土 黄褐色パミスが混入
Ⅴ	Ⅴ層　灰褐色硬質土 （灰コラ） 約3,200年前の開聞岳起源噴出物
Ⅵ	Ⅵ層　黒色土
Ⅶ	Ⅶ層　橙色火山灰層 （アカホヤ火山灰層） 約7,300年前の鬼界カルデラ噴出物
Ⅷ	Ⅷ層　硬質土
Ⅸ	Ⅸ層　茶褐色粘質土
Ⅹ	Ⅹ層　黒褐色粘質土
ⅩⅠ	ⅩⅠ層　黄白色火山灰層 （サツマ火山灰） 約12,800年前の桜島噴出物P-14
ⅩⅡ	ⅩⅡ層　淡黒褐色粘質土
ⅩⅢ	ⅩⅢ層　シラス

第３図　基本土層図

基本層序は，確認調査で行った深掘りトレンチのデータと，Ｄ－３～７区西側，Ｃ～Ｇ－２区北側，Ｇ－１・２区東側土層断面の堆積状況を基に設定した。

全体的な堆積状況として知覧特攻基地飛行場の存在する北側の台地から林川の形成した南側に広がる山間平野部に向かって傾斜する堆積状況を示している。

調査区内の堆積状況は，遺跡北側は表土を除去すると直下にⅦ層アカホヤ火山灰が露出し削平を受け遺物包含層は失われていた。

また，調査区，西側には谷状の小地形が確認され，遺物包含層であるⅣ層途中から湧水が始まり，地盤もルーズになってきたため，周辺家屋への影響等も考慮して，それ以上の掘り下げは断念した。

調査区南東側末端部は，緩やかな傾斜地をなし，遺跡範囲を境に一段落ち水田面となる。水田へと落ちる部分にラミナ構造の砂層が確認され，河川氾濫の痕跡ではないかと推測している。

表土である現耕作土を取り除くと，Ⅱ層黒色土が現れるが，これも攪乱を受けた旧耕作土である。遺物等が出土しないため，時期の特定はできなかった。

Ⅲ層は黒褐色土で次のⅣ層よりやや軟質である。Ⅱ層同様，遺物の出土は確認されなかった。

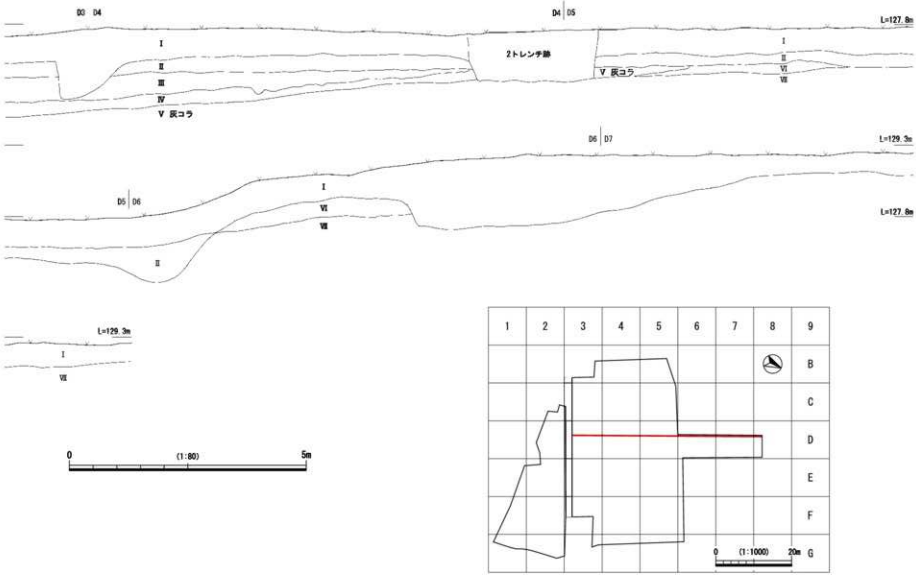
Ⅳ層は硬質の黒褐色土で，中世の遺物，弥生時代末から古墳時代の遺物が出土する，遺物包含層である。一部の地点に限ってであるが，わずかに色調差が認識できる部分もみられたが，上下で遺物の時期差は認められなかった。遺構についてはⅣ層掘り下げ途中，やや下位でピット等が確認できた。

Ⅴ層は灰褐色硬質土で通称（灰コラ）と呼ばれる約3,200年前の開聞岳起源の噴出物で，古墳時代の住居跡はⅤ層上面で検出された。

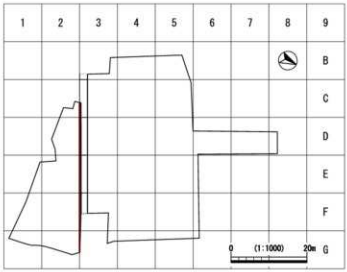
Ⅵ層は黒褐色土で，Ⅳ層土に酷似する。

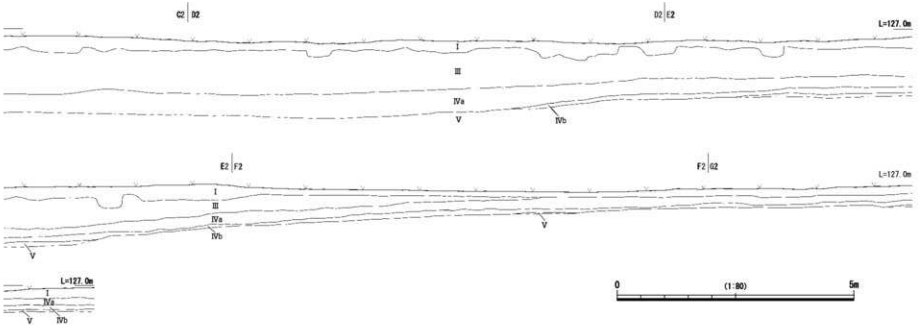
Ⅶ層は橙色火山灰層で（通称）アカホヤと呼ばれる鬼界カルデラを噴出元とする約7,300年前の堆積物である。

Ⅷ層以下は今回の調査では掘削は行わなかった。確認調査時のデータを基に第３図のとおり整理した。いずれも無遺物層である。

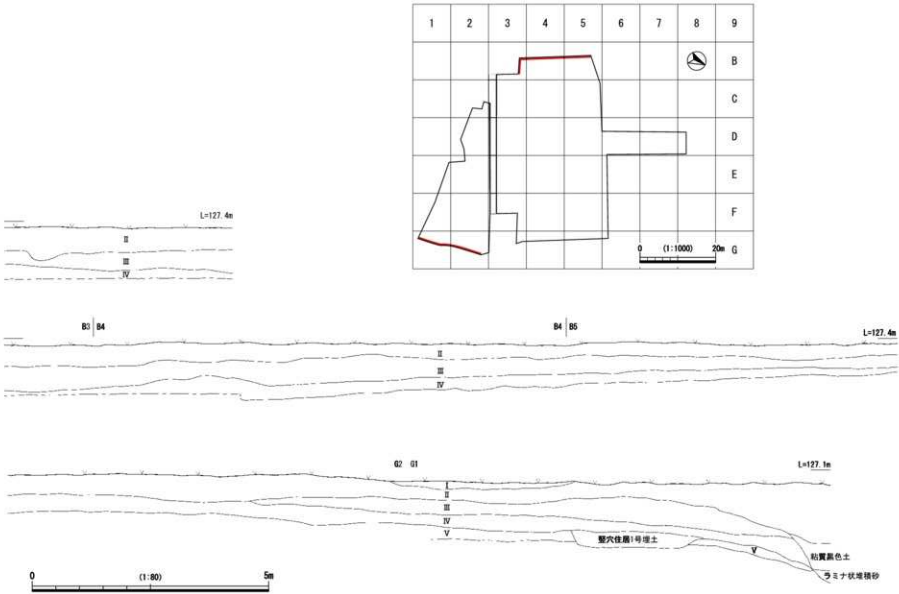


第４図　D－３～７区　西側土層断面図

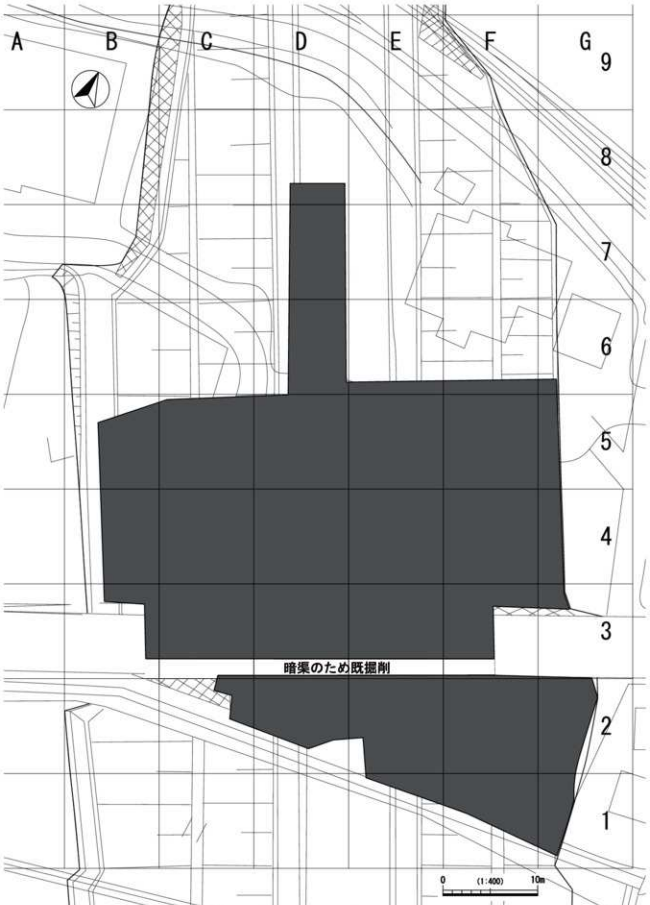




第５図　Ｃ～Ｇ－２区北側土層断面図



第６図　Ｂ－３区南側，Ｂ－５区西側及びＧ－１・２区土層断面図



第７図　グリッド配置図

第３節　調査の成果

１　弥生・古墳時代の調査

(1)調査の概要

弥生・古墳時代の調査は，Ⅳ層掘り下げ時点で，いわゆる成川式土器の胴部片や突帯部などの出土が見られた。そのため，包含層は人力で掘削を行い，出土した遺物の内，小破片は同一層，各グリッドの一括で取り上げを行い，大形の破片については，各遺物の種類，出土層を台帳に記録した後，トータルステーションを用いて座標，レベルを記録した。

Ｆ・Ｇ－１・２区には遺物が集中して出土する部分が７カ所見られ，それらについては，検出順に土器集中１から７と名称を付し，個別に出土状況を実測し，平面，見通し断面の詳細な記録を行った。

包含層の遺物の出土状況にも偏りが見られ，Ｄ～Ｇ－１～３区，遺跡南側の緩やかな傾斜部の末端に集中する傾向が確認できた。

掘り下げがⅤ層上面に達すると灰褐色硬質土の地面に白色，橙色パミスの混入した黒褐色土を埋土とする。方形から長方形の掘り込みが確認でき，検出順に竪穴住居跡と名称を付した。

遺構は，主軸方向とそれに直交する埋土観察用ベルトを設定し掘り下げ，埋土中からの出土遺物については写真撮影を行った。

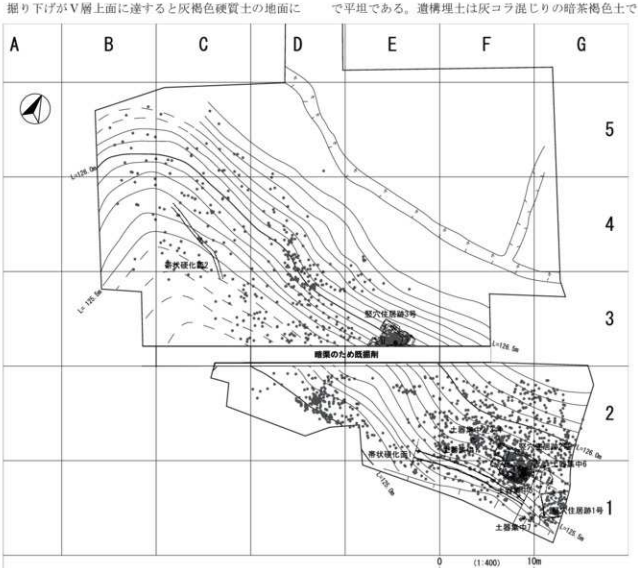
また，埋土中に浮き上がった遺物については，トータルステーションを用い，座標，レベルを記録し，床面直上で出土した遺物については，平面，断面図を作成した後，取り上げを行った。

(2)遺構

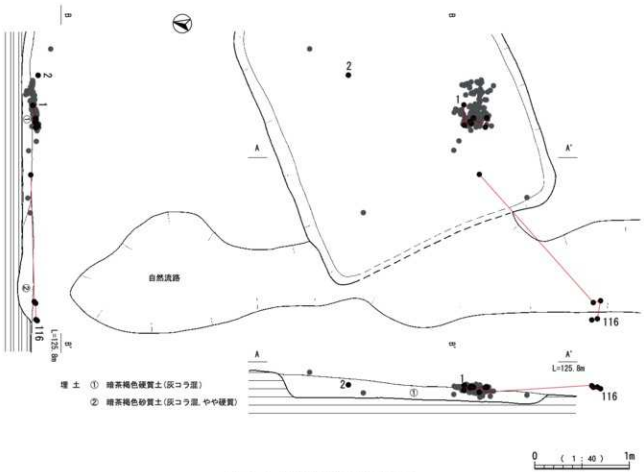
竪穴住居跡１号（第８・９図）

Ｇ－１区，Ⅳ層下位からⅤ層上面で検出された。調査範囲の東端に位置し，一部は調査区外へ広がる。また自然流路により南西壁は浸食され流失している。

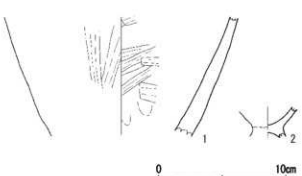
平面形は長軸３ｍ，短軸2.7ｍの方形を呈すると思われる。検出面からの深さは26cm程度で，床面はほぼ水平で平坦である。遺構埋土は灰コラ混じりの暗茶褐色土で



第８図　弥生・古墳時代遺構配置図（S=1/400）



第９図　竪穴住居跡1号検出状況



第10図　竪穴住居跡1号内出土遺物

堅く締まっている。検出面で既に床に近いものと考えられる。遺構内，遺構周辺の精査を試みたがピットは検出されなかった。

竪穴住居跡１号内出土遺物（第10図）

埋土中から土器片149点が出土した。ほとんどが小片であったが，うち２点が掲載できた。１は，甕の胴部下半片で器形は判然としない。外面は丁寧な工具ナデ調整が施されている。２は，手捏ねの甕ないしは鉢であると思われる。

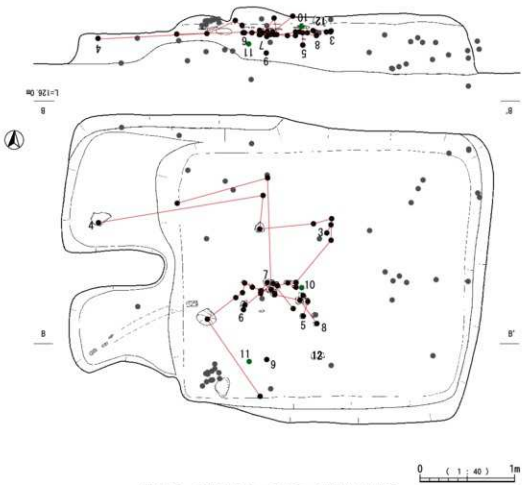
竪穴住居跡２号（第８・11・14図）

Ｆ・Ｇ－１・２区，Ⅴ層上面で検出された。平面形は長軸3.3m，短軸3.1mの方形で，西側に１mほどの張り出しが２カ所設けられている。検出面からの深さは60cmほどで南西側がやや削平されているものの残存状況は良好である。主体部では，堀方底面から10cm前後の厚さで貼り床が確認できる。貼り床の埋土はアカホヤの橙色パミスを含んだ，灰コラブロック混じりの暗茶褐色土で硬質である。張り出し部には貼り床は確認されなかった。主体部床面と張り出し部床面では約５cmほどのレベル差があり，張り出し部の方がわずかに高い。

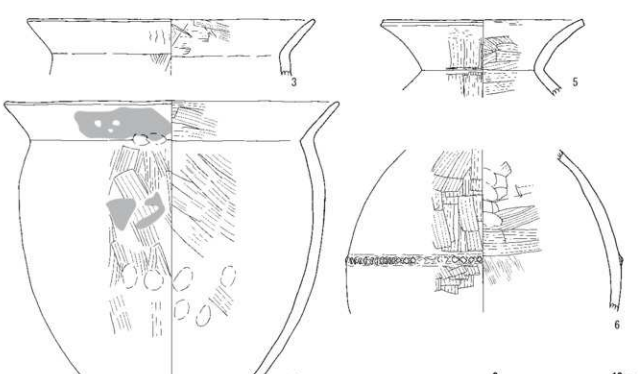
竪穴住居跡２号内出土遺物（第12・13図）

埋土中から遺物の小片が出土し，床面直上にも遺物の集中箇所が見られた。総数126点出土した内，10点を図化した。

３，４は甕の口縁及び口縁から胴部片である。口唇部は先細りとなり，口縁部はくの字に外反し，屈曲部内面

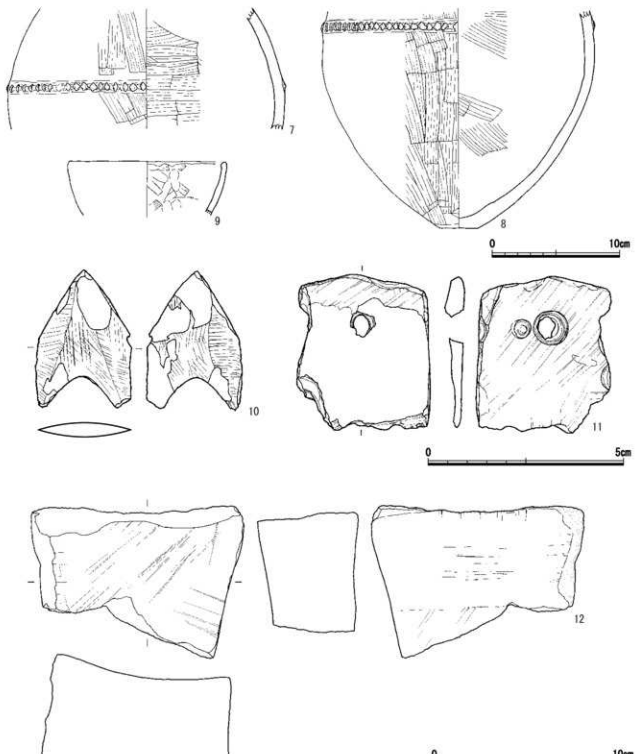


第11図　竪穴住居跡２号床面，遺物検出状況



第12図　竪穴住居跡２号内出土遺物（１）

に明瞭な稜線を有する。3は口縁部外面にしぼり痕が確認できる。4は胴部外面を入念に刷毛目調整した後，胴部下位はさらにナデ調整で仕上げている。胴部上半には煤が多量に付着している。5～8は壺である。胎土，調整，器形などから同一個体と考えられるが，接合点が見つからなかったため，個別で掲載した。5は，口縁部片で大きく，くの字に外反する。口唇部は平坦でわずかに中央がくぼむ。6，7は，壺の肩部片で外面は刷毛目調整後，ナデ調整が行われる。内面上半には刷毛目調整痕がそのまま残されている。胴部には一条の突帯が巡り，突帯には施状の工具で刻みが施されている。8は，胴部から底部片で背面は刷毛目調整後丁寧にナデ調整が施さ

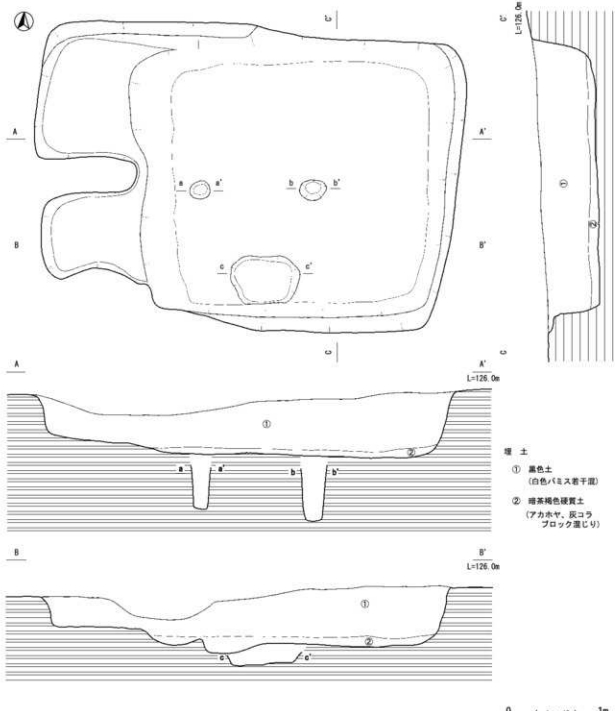


第13図　竪穴住居跡２号内出土遺物（２）

れている。底部は径３ｃｍほどの小さな平底を呈する。９は，鉢の口縁部と思われる。復元口径12.４ｃｍ程度となる。口唇部はやや平坦を呈する。10は，粘板岩製の磨製石鏃である。五角形の形状で緩いＶ字状の抉りを有し，抉り部にはすり切ったような擦痕が観察できる。11は，頁岩製の石包丁片である。側縁部にはすり切ったような擦痕が確認できる。穿孔は途中で放棄されたものが残っており，それに隣接した場所に片面から施されている。欠損により刃部は残っていない。12は，砂岩製の砥石である。表裏両面，緩くカーブしており使用の痕跡を示している。重量は約700ｇである。

竪穴住居跡３号（第８・15・16図）

Ｅ－３区，Ｖ層上面で検出した。丁度，現道下に当たり遺構南側は既設暗渠工事の際，削平を受けており，完全に失われていた。また現道下はほとんどⅣ層の遺物包含層まで道路工事のため削平を受けており，周辺からの



第14図　竪穴住居跡２号完掘状況

遺物の出土はほとんど見られなかった。

平面形は，およそ４ｍ四方の方形を呈しており，西側に約50cm程の小さな張り出しが２カ所設けられている。検出面からの深さは約55cmで，底から約10cm程，灰コラの小ブロックが多く混ざる暗茶褐色の硬質土が見られ，これが貼り床と考えられる。床面をはがすと遺構中央に直径約40cm，深さ約45cmのピットが１カ所検出された。

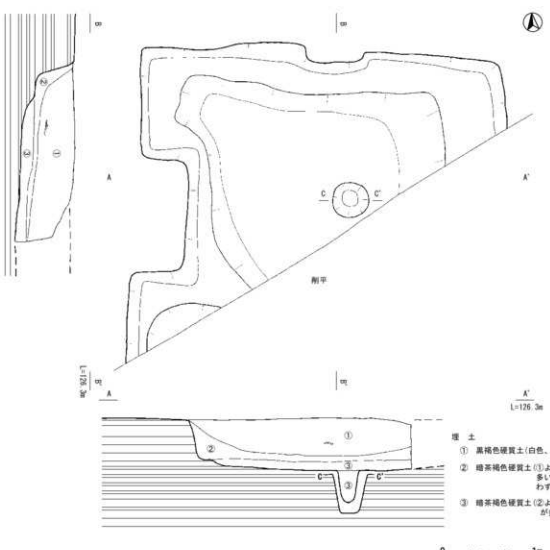
竪穴住居跡３号内出土遺物（第17・18図）

埋土中から遺物が出土したが，レンズ状堆積の層から出土しており，床面直上の出土遺物は見られなかった。総数314点出土し，内29点を図化した。

13～34は甕である。全体を復元できるものは無かった。13～21は甕の口縁から胴部片である。13は，口唇部が平坦で中央に凹みをもち，口縁部はやや短く，くの字に外反する。外面には刷毛目調整痕が縦位に残り，内面には同調整が斜位に交錯するように残っている。14～16は，口唇部が先細りからやや丸みを帯び，口縁部が，くの字に外反し，屈曲部内面の稜線は明瞭である。14は口縁部内面の刷毛目調整痕が荒く，その調整によって屈曲部内面の稜線が強調されている。15は，内面を丁寧にナデ調整で仕上げている。16は，口縁部内面全体を横位のナデ調整で仕上げた後，屈曲部上位にさらに刷毛目調整を施し，２段の屈曲を持つような形に仕上げている。外面には全体的に煤が付着している。17は全体的に器壁が厚く，口縁部は14などと同様にくの字に外反するが，屈曲部外面を指で横位に撫でて凹ませている。そのため内面の稜線がやや鈍くなっている。

18は小形の甕である口縁部の屈曲は弱いが，口唇部を先細りに仕上げる段階で，口縁部内面に屈曲の稜線を形成しようとする意図が感じられる。

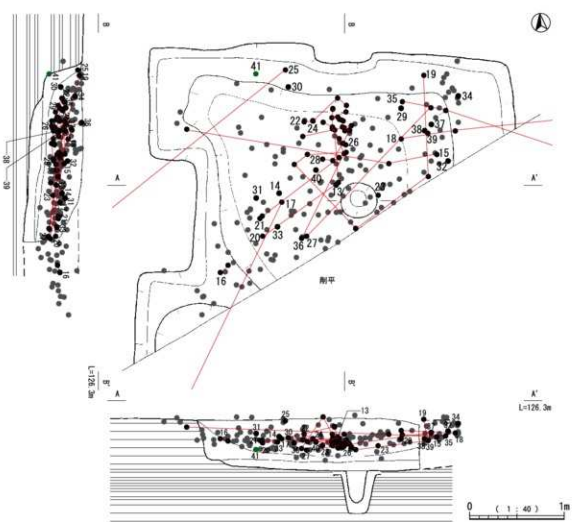
19，20は大形の甕の口縁部である。19は，口縁部屈曲の度合いは大きいが，屈曲部内面の稜線はほとんど看取できない。20は，口縁部が外弯する。21は，14などと同程度の口径となるが，20同様口縁部は外弯している。



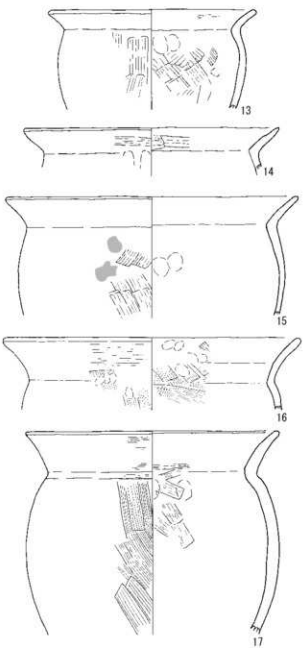
第15図　竪穴住居跡３号検出状況

表２　竪穴住居跡出土土器観察表（１）

掘図番号	掘図番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	頭部（内面）	色調（外面）	現状	取上			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													写真	図化	角度			口径	底径	器高	
10	1	1000	旧	G	-	1	縄川式土器	壺	胴部	ハケのちナデ、指頭圧痕	ハケのちエ具ナデ	普通	○	○	-	灰黄褐色10YR4/2	明赤褐色5YR4/6	-	-	-	-
		1011_1007	旧	G	-	1															
		1011_1008	旧	G	-	1															
		1011_1010	旧	G	-	1															
		1011_1018	旧	G	-	1															
		1011_1024	旧	G	-	1															
	2	1011_1003	旧	G	-	1	半竹仙土器	壺or鉢	頸部～胴部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	黄灰色2.5Y4/1	黄褐色2.5Y5/2	-	-	-	-
12	3	1012_1004	旧	F	-	1	縄川式土器	壺	口縁部	ハケナデ、ナデ	ハケナデ、ナデ	長胴	○	○	-	黒褐色10YR3/2	明赤褐色5YR4/6	(22.5)	-	(8.4)	-
		1012_1006	旧	F	-	1															
	4	1012_土器集中6_024	旧	F	-	2	縄川式土器	壺	口縁部～胴部	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	褐色7.5YR4/4	にぶい褐色7.5YR5/4	(26.2)	-	(22.4)	人天付着
		1012_1014	旧	F	-	1															
		1012_1002	旧	F	-	1															
		1012_1004	旧	F	-	1															
		1012_1012	旧	F	-	1															
		1012_1008	旧	F	-	2															
		1012_土器集中6_010	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_022	旧	F	-	2															
		1012_土器集中6_009	旧	F	-	1															
		1012_1002	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_007	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_008	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_025	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_011	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_018	旧	F	-	1															
		1012_1008	旧	F	-	1															
		1012_1017	旧	F	-	1															
	5	1012_土器集中6_003	旧	F	-	1	縄川式土器	壺	口縁部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	長胴	○	○	-	にぶい黄橙色10YR7/4	にぶい橙色7.5YR6/4	(15.8)	-	(6.0)	-
		1012_土器集中6_005	旧	F	-	1															
		1012_土器集中6_004	旧	F	-	1															
	6	1012_土器集中6_019	旧	F	-	1	縄川式土器	壺	胴部	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	ハケメ	普通	○	○	-	黒褐色10YR3/1	明赤褐色5YR5/3	-	-	-	-

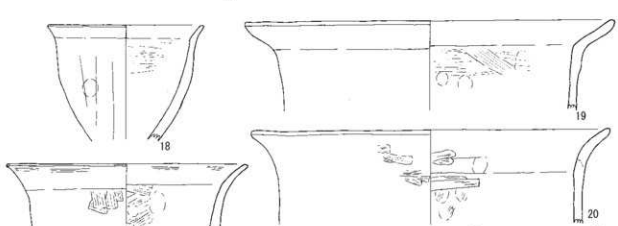


第16図　竪穴住居跡３号内遺物出土状況

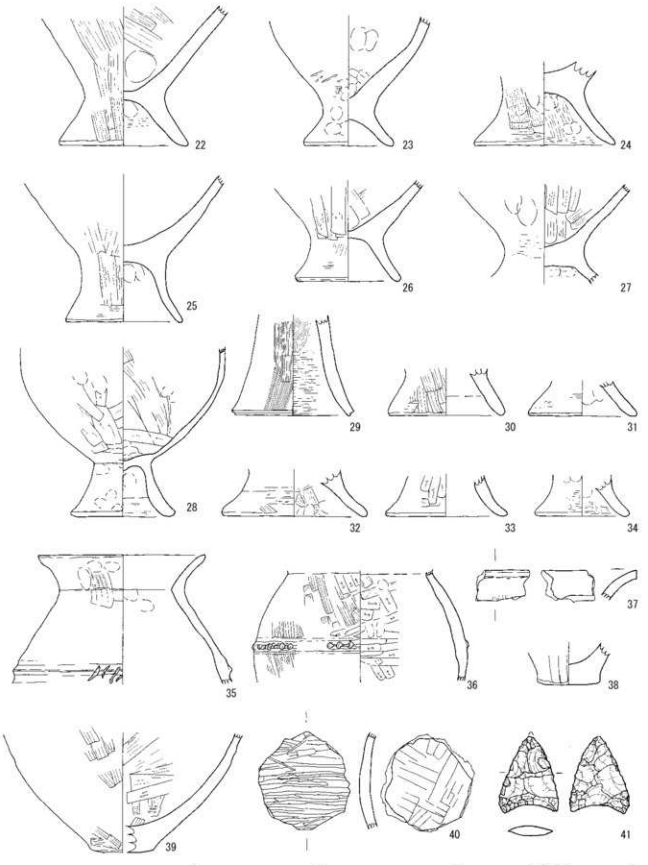


22～34は甕胴部から脚部片である。22，23は，弯曲気味に外開きする脚台を呈し，端部は丸くおさまり，脚内面天井部は丸みを帯びる。23は，脚径が6．8cmと小さく，高さも脚天井部まで2cmと低い。24は，弯曲の度合いがやや大きく，脚端部の横ナデ調整痕が顕著である。25は脚台高が4．7cmと高く，脚内面天井部がやや平坦である。26は，脚内面天井部が平坦で，脚端部が平坦面を呈し中央がわずかに凹む。27は，脚部を欠損しているが，内面天井部は平坦である。28は，胴部，脚部の接合部の器壁が薄く，脚端部に向かって厚くなる。脚内面天井部は瘤状に出っ張る。胴部の器壁が非常に薄い。29～34は脚部のみの破片である。29は，外面に細かい刷毛目調整痕が明瞭に残り，脚端部は凹む。30は粗い刷毛目調整痕が残る。31～34は，内外面ともにナデ調整で丁寧な仕上げで，32～34は脚部の弯曲の度合いが大きい。

35～39は，壺である。全体を復元できるものは無かった。35は，口縁部が，くの字に外反し，口唇部は先細りとなる。胴部に断面三角形の突帯が巡り，篦状の工具で，斜位に連続した鋭利な刻みを施している。36は，胴部片で，断面略台形状の突帯が巡り，突帯に対して斜め方向からの連続した刻みを施している。外面には，刷毛目調整痕が明瞭に残る。37は口縁部で，大きく外弯する形状を呈する。口唇部は平坦である。38，39は，壺の底部片で，38は径4．8cm程の平底を呈する。外面は工具ナデによる丁寧な調整がなされている。39は，復元底径約5cmの平底で中央部が，わずかに外側へ膨らむ。胴部が大きく膨らむ器形を呈する。内面は荒い削り調整の後，工具ナデ調整を行っており，なめらかに仕上がっている。40は，甕もしくは壺の胴部片を再加工した，径約7cm程の円盤形土製品である。器面には，再加工前の粗い工具ナデの跡が明瞭に残っている。41は，二等辺三角形の安山岩製の石鏃で，抉りが浅く扁平な形状である。



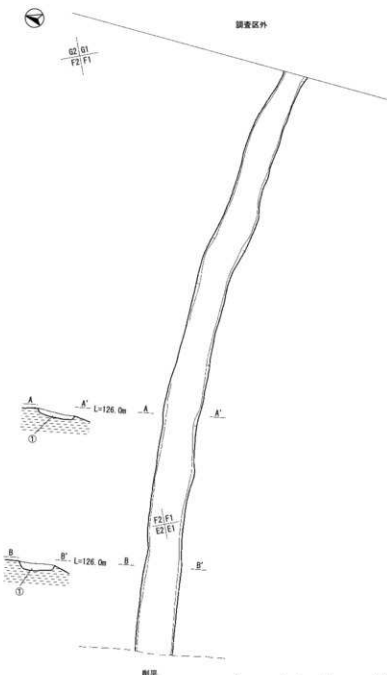
第17図　竪穴住居跡3号内出土遺物（1）



第18図　竪穴住居跡３号内出土遺物（２）

表３　竪穴住居跡出土土器観察表（２）

地区番号	地区番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	装飾（内面）	装飾（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
12	6	812_土器集中6_013	812	F	＝	1	成川式土器	壺	頸部	ハケメ，ナデ，指頭圧痕	ハケメ	普通	○	○	－	黒褐色(2/6)/1	暗褐色(2/6)/3	－	－	－	－
		812_土器集中6_020	812	F	＝	1															
		812_000	812	F	＝	1															
	7	812_土器集中6_014	812	F	＝	1	成川式土器	壺	頸部	ハケ，ナデ	ハケ白ちナデ	良好	○	○	－	黒色(2/1)	にぶい黄褐色(2/6)/4	－	－	－	－
		812_土器集中6_015	812	F	＝	1															
		812_土器集中6_016	812	F	＝	1															
12	8	812_001	812	F	＝	2	成川式土器	壺	頸部～底部	ハケ白ちナデ	ハケ白ちナデ	普通	○	○	－	にぶい黄褐色(2/6)/3	暗褐色(2/6)/3	－	3.0	(17.2)	－
		812_000	812	F	＝	2															
		812_土器集中6_002	812	F	＝	1															
		812_土器集中6_012	812	F	＝	1															
		812_土器集中6_011	812	F	＝	1															
		812_土器集中6_006	812	F	＝	1															
		812～他	－	－	－	－															
	9	812_011	812	F	＝	1	成川式土器	鉢	口縁部	工具ナデ，指ナデ	工具ナデ	普通	○	○	－	暗褐色(2/6)/3	黒褐色(2/6)/3	(12.4)	－	(4.2)	－
12	13	812_177	812	E	＝	3	成川式土器	壺	口縁部～胎部	ハケナデ，ナデ，指頭圧痕	ハケナデ，ナデ	普通	○	○	－	黒褐色(2/6)/1	灰黄褐色(2/6)/2	(16.6)	－	(7.6)	大木様類



第19図　帯状硬化面１検出状況

帯状硬化面１（第19図）

帯状硬化面１は，Ｆ－１区のⅣ層下位付近で検出された。周辺のプライマリーなⅣ層土と比較して，わずかに白色粒が多く灰色を帯びた黒色土が硬化したもので，幅約80cm程，長さ約12.6ｍ，東西方向に延びるように形成されている。東側は調査区外へ延びるものと考えられ，西側もさらに延びると思われたが，湧水の滲出により硬化面として捉えることができなかった。硬化面の厚さは約10cm程で，２点の土器片が埋土中から出土したが図化には及ばなかった。確実な時期決定は難しいが，出土遺物が，弥生・古墳時代相当の土器片と思われることから，当該時期の遺構と判断した。

帯状硬化面２（第20図）

帯状硬化面２は，Ｃ－４区のⅣ層下位付近で検出された。周囲と比較し灰色を帯び，わずかに硬化していたが，湧水滲出の状態，表面の乾燥度合いによって確認できたり，できなかったりした。幅40cm，長さ約９ｍが確認された。南東から北西方向に延びており，南東側は湧水が多く確認ができなかった。北西側は先行して掘り下げを行っていたため，調査当時，硬化面を認識することはできなかった。遺構の時期は，特徴が帯状硬化面１と類似することから，同時期を想定している。

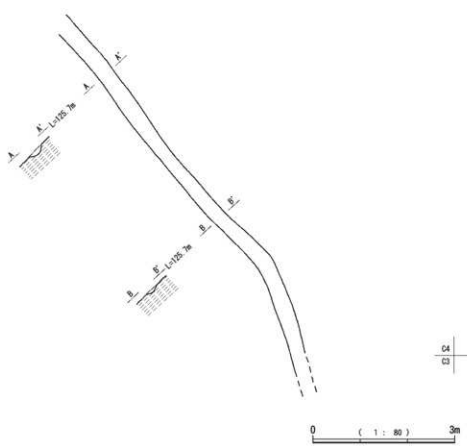
土器集中１～７（第21～23図）

Ｆ・Ｇ－１・２区に，集中的に土器が出土する箇所が見られた。全部で7カ所の集中部が見つかり，検出順に1から７の番号を付した。

土器集中１で２個体，土器集中５で13個体を復元でき，残りの土器集中部

表４　竪穴住居跡出土土器観察表（３）

遺構番号	層位番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
	14	512_084	第	8	4		縄文前主層	壺	口縁部	ハケナデ　ナデ	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色(10YR6/4	にぶい黄橙色(10YR6/3	(20.6)	-	(3.6)	-
	9	512_014 512_064 512_117	3/3	8	2		縄文前主層	壺	口縁部 ～頸部	指頭圧痕　ナデ	ハケナデ　ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色(10YR6/4	褐色(10YR4/4	(22.0)	-	(9.2)	スス付着
	6	512_060	3/3	8	3		縄文前主層	壺	口縁部	ハケナデ　工具ナデ ナデ　指頭圧痕	ハケナデ　ナデ 指頭圧痕	普通	○	○	-	褐色(10YR4/4	褐褐色(10YR5/3	(23.0)	-	(5.7)	内面全体スス付着
	17	512_062 1118	3/3 第	8 6	3 2		縄文前主層	壺	口縁部 ～頸部	工具ナデ　ナデ 指頭圧痕	ハケナデ　ナデ	普通	○	○	-	褐色(10YR4/4	褐色(10YR4/4	(20.0)	-	(16.0)	外面スス付着
	5	512_027 512_033 264	3/3 3/3 V	8 8 8	2 3 2		縄文前主層 小包層	壺 壺	口縁部 ～頸部	ナデ	工具ナデ　ナデ 指頭圧痕	普通	○	○	-	明褐色(7.5YR5/6	明褐色(7.5YR5/6	(13.2)	-	(10.1)	-
11	19	512_106 512_111 512_196 512_155 512_062 512_191 512～196	3/3 3/3 3/3 3/3 3/3 3/3 ～	8 8 8 8 8 8 ～	3 3 3 3 3 3 ～		縄文前主層	壺	口縁部 ～頸部	ナデ　指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色(10YR6/4	にぶい黄橙色(10YR6/4	(28.2)	-	(7.9)	内面指頭圧痕あり
	20	512_078 512_163 512_048	3/3 3/3 3/3	8 8 8	3 3 3		縄文前主層	壺	口縁部	工具ナデ　ナデ 指頭圧痕	工具ナデ　ナデ	普通	○	○	-	にぶい褐色(7.5YR5/3	にぶい黄橙色(10YR6/4	(28.2)	-	(7.4)	-
	21	512_080 512_092 512_104	3/3 3/3 3/3	8 8 8	3 3 3		縄文前主層	壺	口縁部	工具ナデ　ナデ 指頭圧痕	ハケナデ　ナデ	普通	○	○	-	明赤褐色(5YR5/6	明褐色(7.5YR5/6	(19.8)	-	(5.6)	外面スス付着
18	23	512_148	3/3	8	3		縄文前主層	壺	胴部～頸部	ハケナデ　指頭圧痕	ハケナデ　ナデ	普通	○	○	-	明赤褐色(5YR5/6	にぶい褐色(7.5YR5/4	-	(9.2)	(11.6)	



第20図　帯状硬化面２検出状況

C5
C4

については，１個体が潰れるような状態で残存していることが確認できた。１個体のみが集中出土した土器集中２，３，４，６，７については，埋設等の可能性も考え，掘り込みの有無の確認のため精査も行ったが平面断面ともに掘り込みの確認には至らなかった。図化した遺物の詳細は後述する。

土器集中１（第21図）

土器集中１は，60cm×60cmの範囲に遺物が散在し北西側に30cm×20cm程の集中部分が検出された。

土器集中２（第21図）

土器集中２は，甕の脚部が正位で検出され，東側に胴部半身の破片がまとまって検出された。

土器集中３（第22図）

土器集中３は，70cm×50cmの範囲に遺物が散在する状態で検出された。44点出土し，一部接合もされたが，図化には至らなかった。甕の胴部片と思われる。

C4
C3

土器集中４（第22図）

土器集中４は，ほぼ30cm四方の範囲にまとまって遺

表５　竪穴住居跡出土土器観察表（４）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	調整（外面）	調整（内面）	焼成	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	色調（外面）	色調（内面）	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	備考
19	22	013_148 013_145 013_107 013_200 013_201_1 013_206 013_149 013_204 013_203 013_101 013一括	013 013 013 013 － 013 013 013 013 013 －	E-3 E-3 E-3 E-3 － E-3 E-3 E-3 E-3 E-3 －	成川式土器	甕	胴部～底部	ハケナデ、指頭圧痕	ハケナデ、ナデ	普通	○	○	－	明赤褐色5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	－	10.0	(11.0)	－
	23	013_123	013	E-3	成川式土器	甕	胴部～底部	指頭圧痕、ナデ	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	－	にぶい褐色7.5YR5/3	暗褐色10YR3/3	－	(8.6)	(10.2)	－
	24	013_102	－	E-3	成川式土器	甕	底部	指頭圧痕、工具ナデ	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	－	黄褐色10YR5/6	黄褐色10YR5/6	－	11.0	(6.6)	内面スス付着
	25	013_051 1051 1004	013 Ⅳ Ⅳ	E-3 D-3 D-3	成川式土器	甕	胴部～底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	－	黒褐色10YR3/1	灰黄褐色10YR4/2	－	(8.1)	(11.7)	－
	26	013_201_2 013_198 013_199 013_206 013_207 013_209 013_099 013一括	－ 013 013 013 013 013 013 －	－ E-3 E-3 E-3 E-3 E-3 E-3 －	成川式土器	甕	底部	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	普通	○	○	－	黒褐色7.5YR3/1	にぶい褐色7.5YR5/4	－	8.0	(8.0)	－
	27	013_021 013_132	013 013	E-3 E-3	成川式土器	甕	胴部～底部	ナデ、工具ナデ	指頭圧痕、ナデ	普通	○	○	－	黒褐色10YR3/2	橙色5YR6/6	－	－	－	内面わずかにスス付着
	28	013_152 013_153 013_147 013_106 013_150 013_205 013一括 013一括	013 013 013 013 013 013 － －	E-3 E-3 E-3 E-3 E-3 E-3 － －	成川式土器	甕	胴部～底部	ハケナデのちナデ、指頭圧痕	工具ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	－	明褐色7.5YR5/6	にぶい黄褐色10YR5/3	－	7.4	(13.2)	－
	29	013_111	－	E-3	成川式土器	甕	底部	工具ナデ、ナデ	ハケナデ	良好	○	○	－	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい褐色7.5YR5/4	－	(9.0)	(7.6)	－
	30	013_108	－	E-3	成川式土器	甕	底部	ナデ	ハケナデ	普通	○	○	－	にぶい黄橙色10YR7/4	にぶい黄橙色10YR6/4	－	(6.6)	(2.7)	－
	31	013_069	－	E-3	成川式土器	甕	底部	指頭圧痕、ナデ	ナデ	普通	○	○	－	にぶい黄橙色10YR6/3	にぶい黄橙色10YR6/3	－	(8.2)	(2.7)	－
	32	013_030	－	E-3	成川式土器	甕	底部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	ナデ、工具ナデ	良好	○	○	－	黒色10YR2/1	にぶい黄橙色10YR6/4	－	(11.0)	(3.7)	金雲母
	33	013_079	－	E-3	成川式土器	甕	底部	工具ナデ	工具ナデのちナデ	良好	○	○	－	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/4	－	(9.2)	(3.3)	－
	34	013_006	－	E-3	成川式土器	甕	底部	指頭圧痕、ナデ	工具ナデ、ナデ	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	－	(7.0)	(3.3)	－
	35	013_112 013_036 1587 013一括 一括 一括	013 013 Ⅳ Ⅳ Ⅳ Ⅳ	E-3 E-3 F-2 － G-2 F-2	成川式土器	壺	口縁部～胴部	指頭圧痕、ナデ	ナデ、指頭圧痕、ハケナデ	普通	○	○	－	にぶい黄橙色10YR6/4	明褐色7.5YR5/6	(13.2)	－	(10.2)	－
	36	013_039 013_105 013_131 013_174	013 013 013 013	E-3 E-3 E-3 E-3	成川式土器	壺	胴部（刻み突帯）	ナデ、指頭圧痕	ハケナデ、ナデ	普通	○	○	－	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい赤褐色5YR5/4	－	－	－	－
	37	013_024	013	E-3	成川式土器	壺	口縁部	ナデ	ナデ、ハケナデ	普通	○	○	－	黒色10YR1.7/1	黒色10YR2/1	－	－	－	－
	38	013_034	013	E-2	成川式土器	壺	底部	ナデ	工具ナデ、ナデ	普通	○	○	－	黒褐色7.5YR3/1	黒色7.5YR2/1	－	(4.0)	(3.2)	－
	39	013_035	013	E-3	成川式土器	壺	胴部～底部	ケズリのち工具ナデ	ハケナデのちナデ	良好	○	○	－	にぶい褐色7.5YR6/4	明褐色7.5YR5/6	－	(5.0)	(6.5)	－
	40	013_154	－	E-3	土製品	ミニチュア	胴部	ナデ	工具ナデ	普通	○	○	－	明褐色7.5YR5/6	褐色7.5YR4/4	－	－	－	赤色粒

第21図　土器集中１・２検出状況

物が検出された。

土器集中５（第23図）

土器集中５は，ほぼ１ｍ四方に密集する状態で遺物が検出された。特に遺物の密度が高く，幾重にも重なる状態でややレンズ状に堆積していた。復元図化できたもので13個体を数えた。さらに，遺物取り上げが終了し，周辺精査をかけたところ，土器集中５の下に竪穴住居跡２号が存在することが明らかとなった。

土器集中５の遺物がレンズ状に堆積していたのは，竪穴住居跡２号が利用されなくなり，土砂の流入により浅い凹み状になった時に，土器の廃棄場所となっていた可能性が考えられる。

土器集中６（第23図）

土器集中６は，壺１個体が横転し潰れたような状態で検出された。ほぼ30cm四方にまとまり，胴部の曲面もある程度，維持された状態で検出されたため，掘り込みの存在が考慮されたことから，詳細な精査を行ったが，平面的にも，断面からも掘り込みの様子は確認できなかった。

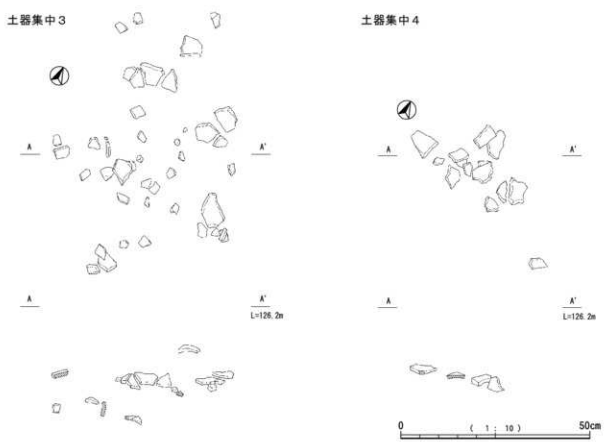
土器集中７（第23図）

土器集中７は，甕1個体が横転し潰れたような状態で検出された。脚部を欠損していたが，胴部の曲面をある程度維持した状態で検出したため，土器集中６同様に，掘り込みの有無の確認を行ったが，掘り込みのラインは確認できなかった。

土器集中内出土遺物（第24図～第26図）

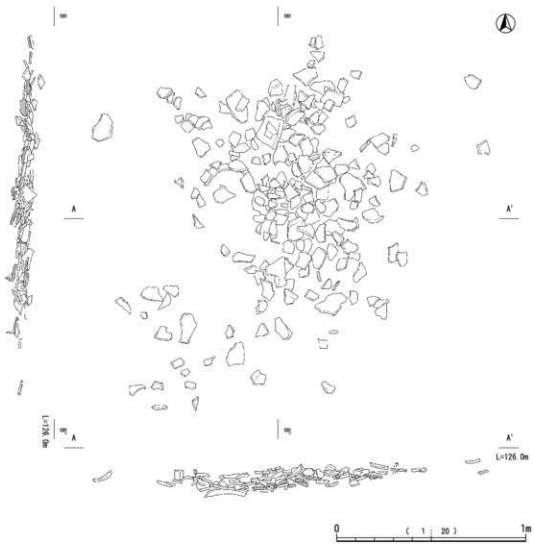
出土遺物については，もっとも個体数の多かった土器集中５をはじめに解説し，残りは順番に説明を加えることとする。

土器集中５の遺物は総数316点出土し，うち復元図化できた42～54の13個体を掲載した。42～48は甕である。42～46は口縁部から胴部にかけての破片である。42～44は，刷毛目調整の後，丁寧にナデ仕上げている。口縁部は，くの字状に外反し口唇部は丸く収まる。42は，屈曲部鋭角で内面外面ともに明瞭な稜線が残る。43は，屈曲部内面の稜線がやや鈍くなるが，刷毛目調整，ナデ調整により意識された作りをしている。44は，器形的には43とほぼ同様であるが，指頭圧痕が顕著で器面がデコボコしている。45，46は口縁部がくの字状に外反する，や

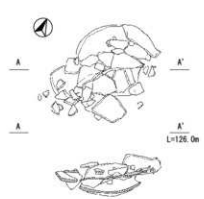


第22図　土器集中３・４検出状況

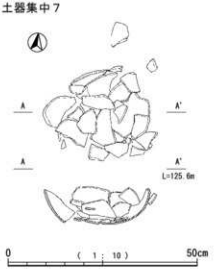
土器集中５



土器集中６



土器集中７



第23図　土器集中５～７検出状況

や小ぶりの甕である。45は，胴部外面と口縁部内面に刷毛目痕が残り，屈曲部の稜線が明瞭で，口唇部が先細る。46は，器面は工具ナデで丁寧に仕上げている。口縁部屈曲は緩いが，内面稜線は意識されている。47は脚台を欠損する甕の胴部下半である。脚取り付け部の径は約5cmで，大きく外開きし胴部はかなり張るものと思われる。48は脚部片であり脚部は1.5cm程度と短く，脚台内面天井部は平坦である。

49～52は壺である。49は，口縁部片で頸部で屈曲し，外弯気味に立ち上がる。口唇部は平坦で中央が凹む。50，51は，口縁部から胴部にかけての破片である。50は，頸部がかるく締まり，口縁部が，くの字状に外反し長い，口唇部は平坦である。外面は丁寧に刷毛目調整がなされ，内面には指頭圧痕が顕著に残される。胴部最大径がやや下半に偏る器形を呈する。51は，口縁部が頸部からわずかに外傾し短く立ち上がる。口唇部は先細りとなり，胴部は鶏卵状の形を呈する。52は，胴部から底部の破片である。底部は緩やかな尖底をなし，内面，外面ともに刷毛目調整痕が顕著で，外面のみナデにより仕上げが施されている。

53は，長頸壺の口縁部片と推測している。口縁部は，わずかに外傾し直線的に立ち上がる。口唇部は先細りとなる。

54は大型の甕形土器である。底部のみ欠損している。復元口径26.8cm，残存器高74.2cmの長胴形を呈する。胴最大径部のやや上位に，高さ，幅ともに1.5cmのつば状の突帯が一条巡る。胴部周囲最大径は172cm，突帯部分で180.5cmを測る。口縁部は，なで肩の肩部から外弯しながら外傾気味に立ち上がり，ラッパ状に開く。口縁部の高さは6cm程である。口唇部は，平坦で中央がわずかに凹む。器面は外面，内面ともに丁寧なナデ調整が行われている。

55，56は，土器集中1で出土した甕形土器である。55は口縁部から脚部まで残存するもので，反転復元口径23.4cm，底径8.4cmである。脚部高は5cm程度で，脚部内面天井部はわずかに平坦面をなす。そこから胴部は外傾し，わずかに内弯気味に立ち上がり，口縁部で，くの字状に外反する。口唇部は丸く収まる。外面上半に煤が付着し，焼成によると思われる剥離も見られる。56は胴部から脚部片で反転復元底径7.8cmで内径気味で直線的に立ち上がる高さ4.4cmの脚部がつく。脚部内面天井部は，平坦である。

57は，土器集中2で出土した。反転復元口径15.2cmで脚部径6.7cm，脚部高2.8cmほど，脚部内面天井部は平坦である。胴部がわずかに張り，頸部が若干締まり，緩いくの字状の口縁で，口唇部は先細りとなる。

土器集中3でも44点の遺物が出土し接合もしたが，図化に至るものはなかった。いずれも甕の胴部片と思われるものであった。

58は，土器集中4で出土した壺の胴部片である。外面には刷毛目調整痕が残り，肩部付近に断面三角形の貼り付け突帯が二条巡る。突帯両側には貼り付け時の横ナデの跡が明瞭に凹み状に残っている。

59は，土器集中6で出土した壺の頸部から底部で底径3.2cmの小さな平底を呈する。肩部に篦状工具を押さえつけて刻みを施した断面三角形の突帯が一条巡る。外面は被熱を受けたのか剥落が著しい。内面下半部はナデ調整，上半部は指頭圧痕が著しい。

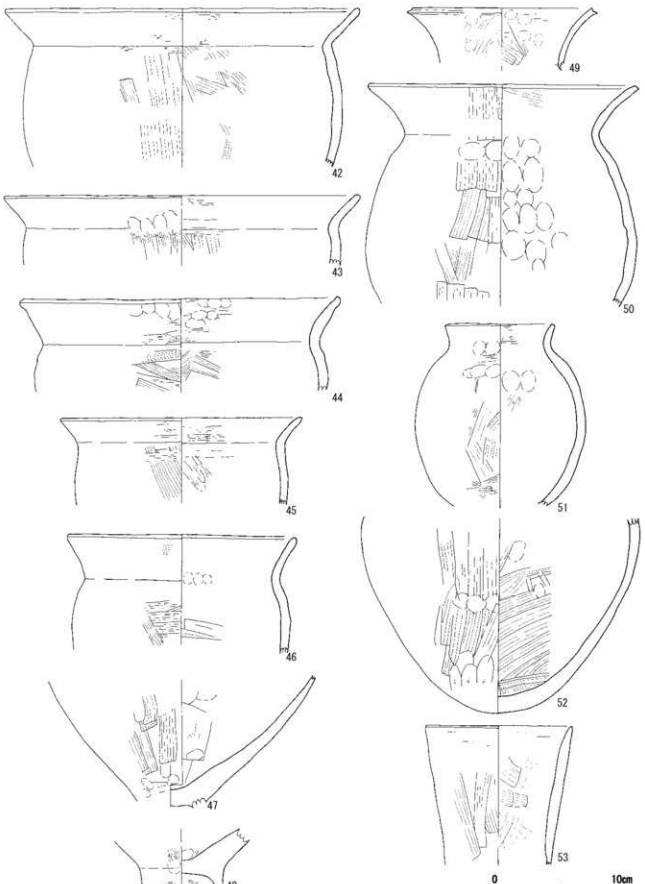
60は，土器集中7で出土した甕形土器である。脚部を欠損する。反転復元口径24.3cmで口縁部は，くの字状に外反し，口唇部は丸く収まる。口縁部内面は刷毛目調整痕が顕著で屈曲部の稜線が明瞭となっている。胴部外面中位には煤が付着し，内面底部付近は黒変している。

(3)遺物（第29図～第34図）

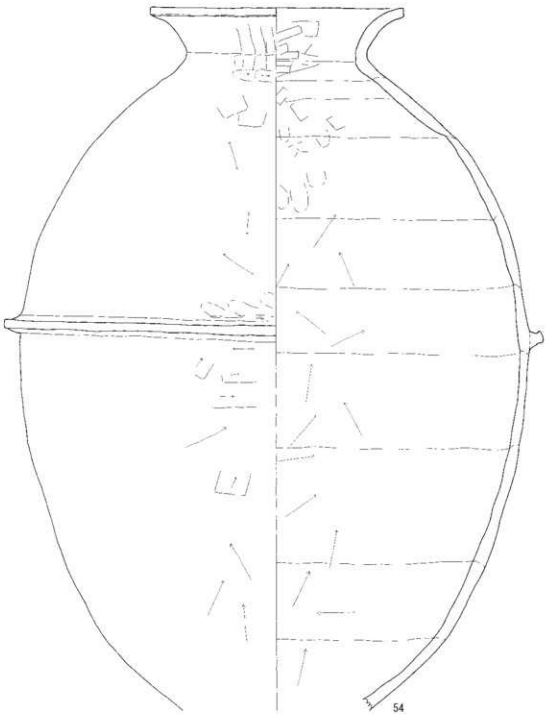
61～82は甕の破片である。61～71は，口縁部及び口縁部から胴部の破片で，口縁部が，くの字状に外反する器形を呈するもので，屈曲部内面稜線が残るものである。61は，口縁部の屈曲の度合いがもっとも強く，長さも短く，口唇部端部が平坦に仕上げられている。62は，61に比べ，口縁部が起き上がり，口縁部の長さは61同様に短く，口唇部は丸く収まる。残存状況から胴部は張り気味になると考えられる。63は，小形の甕で口縁部の屈曲の度合いが大きく，やや長めの口縁となる。64，65は復元径は異なるものの調整，焼成，胎土から同一個体の可能性が非常に高い。口縁部は長くなり，くの字状屈曲の度合いは弱い。しかし，胴部内面をナデ調整し口縁部内面は刷毛目調整痕を残すことにより，屈曲部内面の稜線は明瞭に形成されている。66は，屈曲部内面を細く横ナデすることにより稜線を作り出している。67，68は同一個体の可能性が考えられるもので胎土，調整が非常に類似している。胴部外面のケズリ状の工具ナデ調整が特徴である。69，70は，ほとんど張らない胴部から口縁部がくの字に外反し，口唇部に向かい先細る。71は，屈曲部外面に断面形状三角形の突帯が一条巡る。内面稜線はやや弱い。口縁端部は強く横ナデされ，口唇部は先細りとなる。

72～82は甕の胴部から脚部の破片である。72は口縁部を欠損した胴部上部片である。口縁屈曲部内面の稜線は明瞭である。73は，胴部から底部で脚部を欠損している。脚部内面天井部はドーム状を呈する。胴部外面に刺落が目立つ。74は，胴部片で外面は刷毛目調整痕が著しく，内面は刷毛目調整後，工具ナデにより丁寧に仕上げられている。胴部上位の欠損部にわずかに横ナデ痕が確認でき，屈曲部となるか，突帯が巡っている可能性が指摘できる。

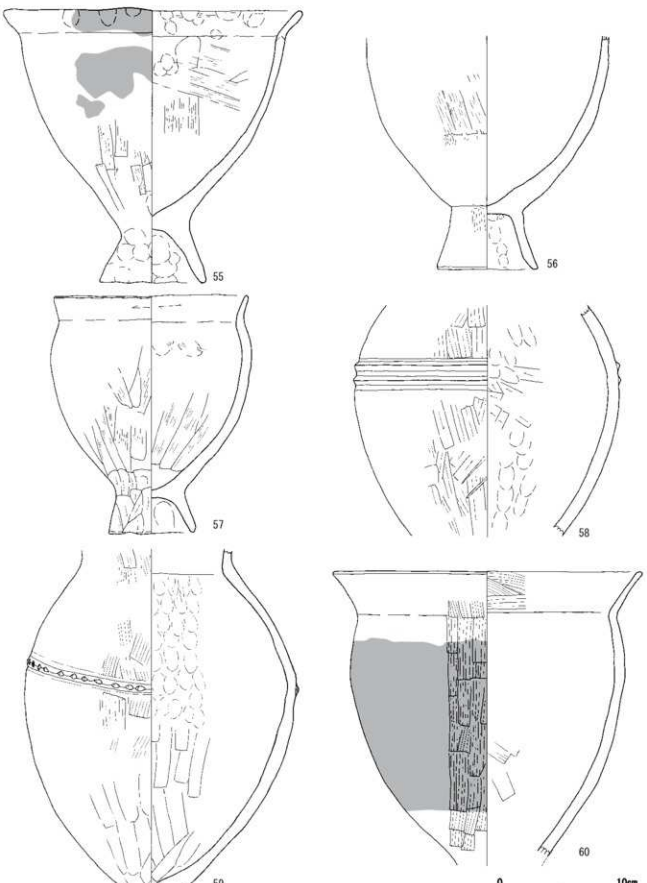
75～82は底部から脚部にかけての破片である。75～78



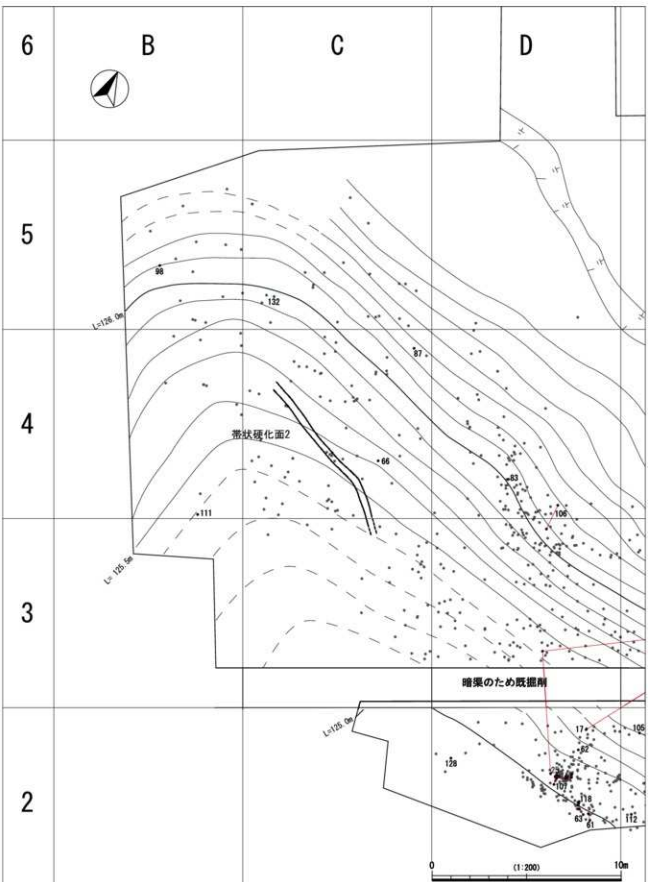
第24図　土器集中５出土遺物（１）



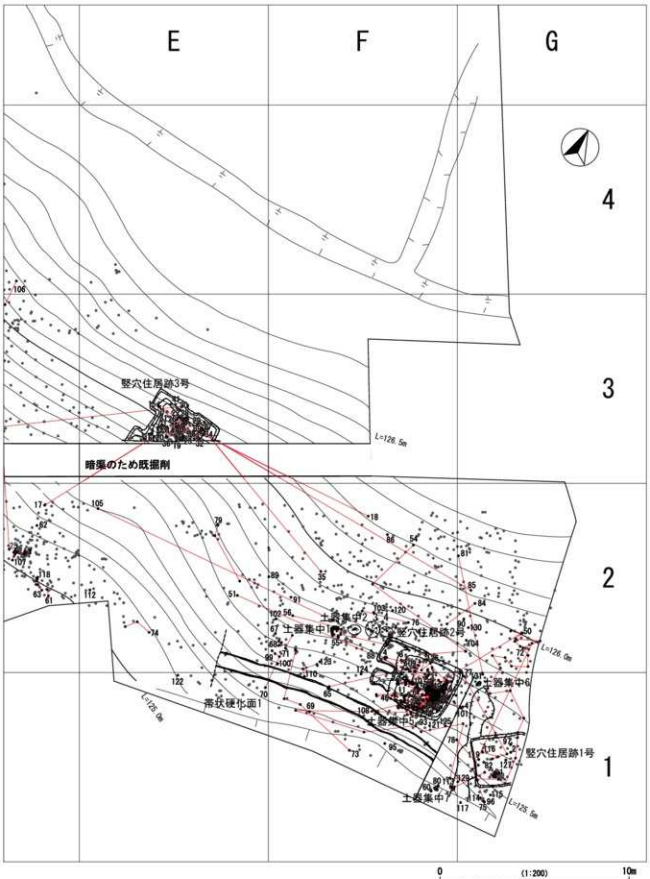
第25図　土器集中５出土遺物（２）



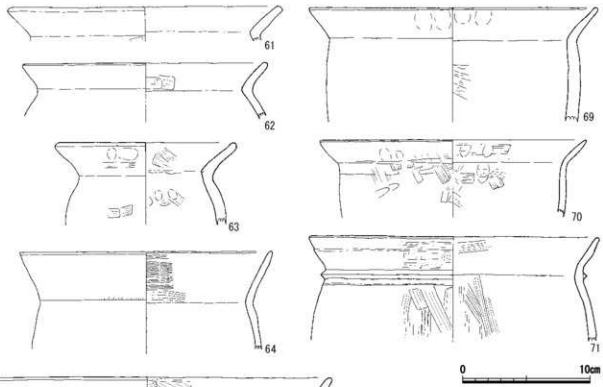
第26図　土器集中１・２・４・６・７出土遺物

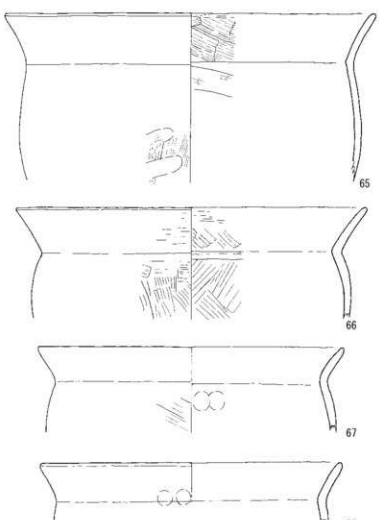


第27図　弥生・古墳時代遺物出土状況（1）



第28図　弥生・古墳時代遺物出土状況（2）





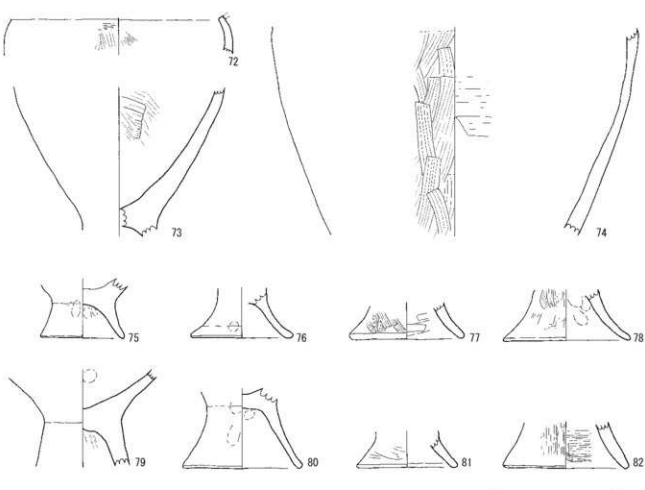
第29図　包含層出土遺物　甕（1）

は，脚部裾に向かいハの字に開く器形を呈する。75，76は，脚部内面天井部がドーム状となるタイプである。76は，脚端部に向かい外弯気味に大きく開き，端部がわずかに膨らみ丸く収まる。器面は丁寧にナデ調整している。77は，端部が丸く収まる。78は端部に向かい先細る。79～82は，脚部裾に向かい直線的に開く器形を呈する。79，80は，脚部内面天井部が平坦となるタイプである。79は，脚部器壁が厚めで，胴部は大きく外開きする。80は，脚端部に向かい直線的に開き，脚部高4.7cmである。脚端部は丸く収まる。81は，脚部内傾の度合いが強い。82は，わずかに内傾し直線的に立ち上がる。

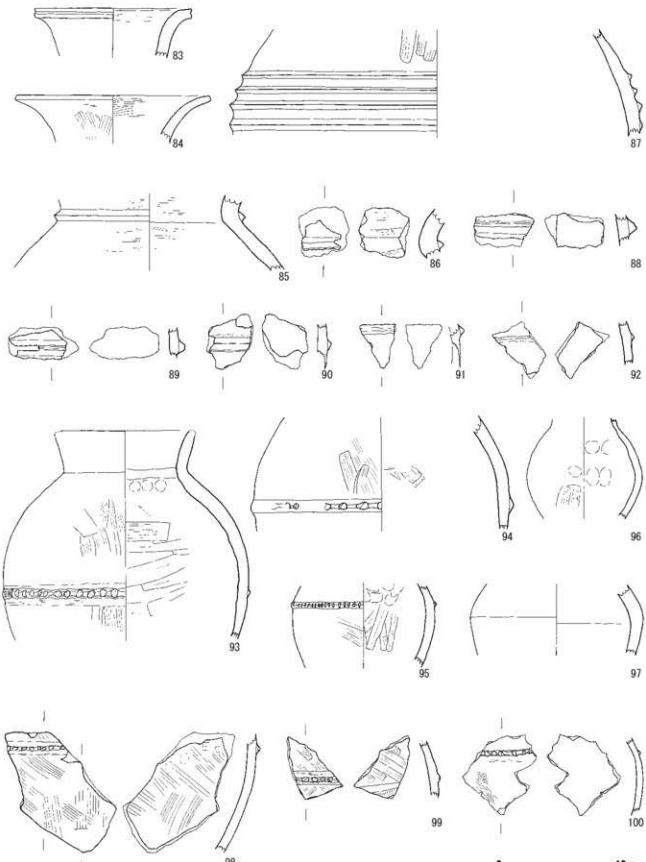
83～111は壺である。83，84は口縁部片で，口縁部が直線上に立ち上がり，途中からラッパ状に開く器形を呈する。83は，口唇部が平坦で中央が凹む。84は，口唇端部が薄く平坦である。85，86は頸部片である。頸部に断面三角形状の突帯が一条巡る。丁寧なナデ調整が施され，器壁が厚い。87は，肩部片で断面三角形状の突帯が四条巡る。内面はナデ調整を行っているが，薄く剥落しているため詳細は判然としない。88～92は，肩部もしくは胴部の突帯と考えられる。88，89は断面形状台形の突帯で中央

を凹ませる。90，91は断面形状がかまぼこ状を呈し，92は，断面形状三角形の突帯である。93～95は突帯を有する壺である。93は，直立気味に外反する口縁を呈する。肩部やや下位に棒状工具による連続した刻みを施す断面形状三角形の突帯が一条巡る。胴部はやや長胴になると想定される。94は，胴部最大径付近に93同様の突帯が一条巡る。95は，篦状工具による鋭利な刻みが施された断面形状三角形の突帯が一条巡る小型の丸底壺である。96，97は突帯を有しない壺である。96は，器壁の薄い小形の丸底壺と推測される。欠損のため口縁部形状はわからない。97は肩部で，わずかに稜線が観察できる。肩部上位はケズリ状に工具ナデ調整している。98～105は，突帯の残る胴部片である。98～100は棒状工具による細かい刻みが施された突帯が巡る。98は断面形状台形を呈する。101～103はやや大きめの棒状工具により刻みが施された突帯が巡る。101，102は工具を軽く押し当てる程度の刻みが行われている。103は斜めに工具を押し当て刻みを施している。104は，断面三角形の突帯に，正位の状態で左方向から篦状工具を斜めに刺し刻みを施されているようである。105は，断面形状がかまぼこ状の突帯に篦状工具で鋭利な刻みを斜位に施している。106～111は底部片である。106は，やや小型の壺の底部と思われ，径4.4cmの平底を呈する。107，108は，明瞭ではないが，107は径3.2cm程度，108は径２cm程度の平底をなす。109は，底部付近の残存が良好でないため，丸底か平底か判別できない。110は，底部に粘土貼り付けを行い丸みを帯びる。111は，反転復元径7.9cmの平底を呈する底部片で，遺存状態から形状の判断は難しいが壺の底部と判断しここに掲載した。

112～125は鉢形土器である。112は広口で大形の口縁部片で，くの字状に外反し大きく開き，復元口径27cmである。113～119は，胴部が椀形を呈し，脚台を有するもの，あるいは有すると思われる小型の鉢である。113は，口縁部から脚部途中までの破片である。復元口径12.2cmで器壁が非常に薄く，口縁部が先細りし，口唇部で尖る。胴部の立ち上がりはやや直線的に外傾する。脚部内面はドーム状を呈する。114，115は，胴部が内弯気味に立ち上がるきれいな椀形を呈する。ともに復元口径11cmで器壁はやや厚め，器面には指頭による器形調整の痕跡が多く残される。口唇部はやや内向きに先細る。115



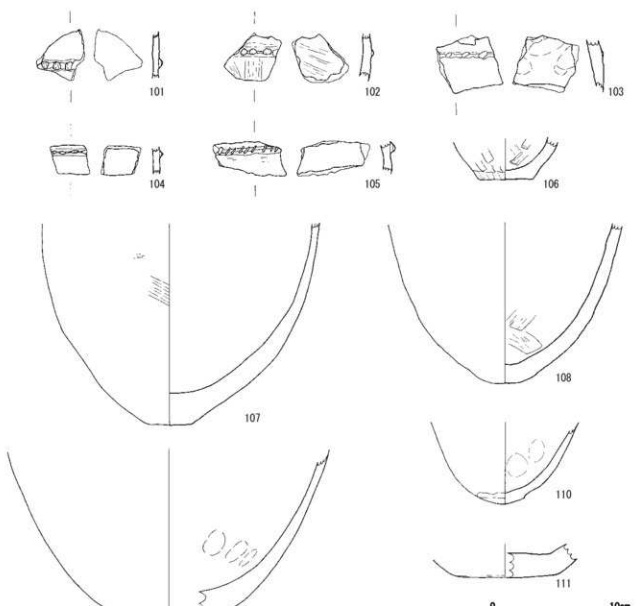
第30図　包含層出土遺物　壺（２）



第31図　包含層出土遺物　壺（１）

は体部下半がやや直線的であるが同一個体の可能性がある。116は復元口径7.8cmで器壁が薄い。体部の立ち上がりは直立気味でわずかに内弯する。口唇部はやや先細る。117は胴部から脚部までの破片である。胴部の立ち上がりは113に酷似している。脚部は外見上，端部に向かい直線的に開く形状を呈するが，内面では脚部中位から外開きするように器壁を薄く仕上げており，ラッパ状に見える。脚部径6.1cmである。脚部内面はドーム状を呈する。118は胴部から底部の破片である。器形は117に酷似する。胴部内面に刷毛目調整痕が残される。119は，完形に復元できる破片である。体部は直線的に外傾する。充実した高台をもち，高台部分は指頭による成形で粗い仕上げである。底部端部はめくり上げるような処理が施されている。復元口径9.8cm，底径（接地面）3cm，器高9.6cmである。120は，口縁部がわずかに締まり胴部が少し張る器形を呈する。復元口径17cmでやや大形である。器壁は大きさの割に非常に薄い。121～124は脚の付く小形の鉢の底部である。121は，脚部の立ち上がりが緩く，脚部高も1.3cm程である。脚部内面天井部はドーム状を呈する。122～124は脚部を欠く底部のみの破片である。125は，底部片で，胴部が大きく開く器形の浅い鉢形土器と思われる。底径3.4cm程の小さな底部をもち，外面はミガキ調整をしていると思われ光沢があるが，ミガキの単位までは確認できない。内面は，かなり粗めの刷毛目調整で仕上げられている。内面は黒化している。

126～130は長頸壺，手捏ね土器，及び用途不明土製



第32図　包含層出土遺物　壺（２）

品である。126は長頸壺の口縁部で，復元口径12.6cmで，口唇部は先細りとなる。胴部形状は不明である。127～129は手捏ね土器である。127は，復元口径4.8cm，器高5.4cmの底部の突出したぐい呑み状とも言うべき器形を呈する。128は，脚部径４cm，脚部高１cm程の断面三角形の脚をもつ甕形の手捏ね土器である。129は，壺形土器で外面は凸凹が激しく粗い仕上げとなっている。底部は尖底となる。130は，用途不明の土製品である。製品上部には受け皿状のものがつくことが断面から予想される。下位に向かい先細る円錐形を呈し，上から下に向かい螺旋状に断面三角形の粘土紐が巻かれている。粘土紐には斜位の細かい刻みが施されている。131，132は石製品である。131は，頁岩製の石包丁の刃部片である。全体的に細かく研磨されているが，刃部は特に入念で一段稜をもった鋭い刃部を形成している。132は，凝灰岩製の凹石兼敲き石である。形状は固形石けん状の形状を呈する。凹石として両面使用しており，径４cm，深さ８mm程度の凹みが形成されている。また，側面，下面を敲打具として使用しており，敲打痕が明瞭に観察できる。

２　中世・近世の調査

(1) 調査の概要

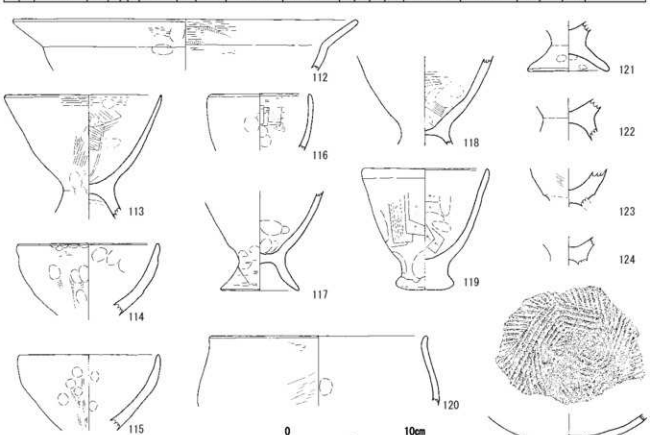
中世・近世の調査は，Ⅳ層掘り下げ時点で，陶磁器，瓦器，土師器などの小破片の出土が見られた。そのため，包含層は人力で掘削を行い，出土した遺物の内，小破片

表６　竪穴住居跡出土石器観察表

地区番号	周堤番号	取上番号	グリッド			層位	器種	石材	計測値				備考
									最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	
15	10	832,26	F	-	1	-	複製石器	粘板岩	35.0	34.0	3.5	3.5	-
	11	832,12	F	-	1	-	石包丁	頁岩	40.0	34.0	5.0	5.0	-
	12	800,1	F	-	1	-	磨石	砂岩	51.0	112.0	65.0	602.0	-
16	41	832,159	F	-	2	-	打製石器	安山岩	21.0	16.0	3.0	5.0	-

表７　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（１）

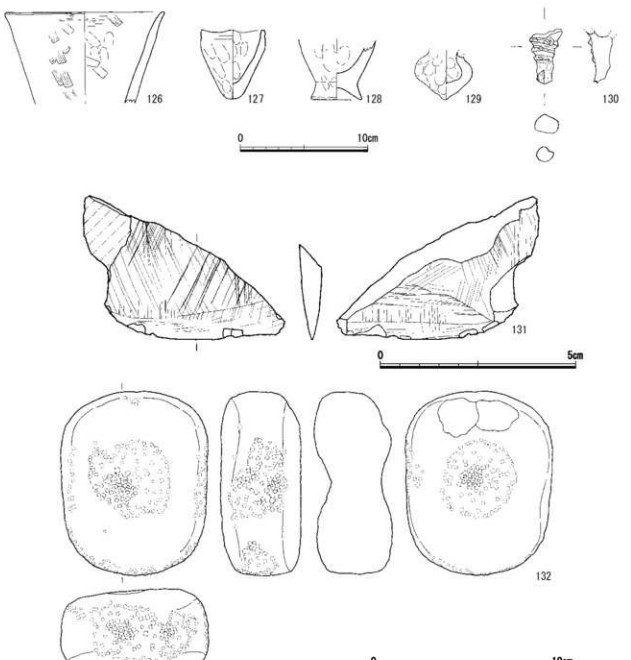
地区番号	周堤番号	取上番号	層	グリッド			層位	器種	形状	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角形石			口径	底径	器高	
24	42	800,387	80	F	-	1	成川式土器	鉢	口縁部～胴部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	明褐色7.5YR6/6	にぶい褐色7.5YR6/4	(28.0)	-	(12.5)	-
		800,387	80	F	-	1															
		800,348	80	F	-	1															
		800,237	80	F	-	1															
		800,79	80	F	-	1															
		800,80	80	F	-	1															
	43	800,389	80	F	-	1	成川式土器	鉢	口縁部	ハケのちナデ	ハケのちナデ，指頭圧痕	良好	○	○	○	明褐色7.5YR6/6	褐色7.5YR6/4	(28.2)	-	(5.5)	-



第33図　包含層出土遺物　鉢

表８　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（２）

地区番号	地区番号	取上番号	層	グリッド		種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量 (cm)			備考
												石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
34	43	一括	-	F	-	成川式土器	蓋	口縁部	ハケ白ちナデ	ハケ白ちナデ，指頭圧痕	良好	○	○	○	明褐色7.5YR6/4	褐色7.5YR4/4	(28.2)	-	(5.5)	-
	44	805,870	805	F	-	成川式土器	蓋	口縁部	工具ナデ，ナデ，指頭圧痕	ハケ白ちナデ，指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい赤褐色5YR4/4	灰褐色7.5YR4/2	(24.8)	-	(7.3)	-
		805,870	805	F	-															
		805,981	805	F	-															
		1045	旧	F	-															
		1060	旧	F	-															
		1055	旧	F	-															
		805～一括	-	-	-															
	45	805,925	805	F	-	成川式土器	蓋	口縁部～頂部	ハケ白ちナデ	ハケ白ちナデ	良好	○	○	-	明黄褐色10YR6/6	にぶい黄褐色10YR6/4	(19.0)	-	(6.8)	-
	46	805,920	805	F	-	成川式土器	蓋	口縁部～頂部	工具ナデ，ナデ，指頭圧痕	工具ナデ，ナデ	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR4/4	にぶい褐色7.5YR4/4	(17.8)	-	(9.2)	白色粒
		805,931	805	F	-															
		909	旧	F	-															
	47	805,718	805	F	-	成川式土器	蓋	頂部	指頭圧痕，工具ナデ，ナデ	ハケナデ，ナデ，指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい赤褐色10YR4/4	にぶい赤褐色5YR4/4	-	-	(10.2)	-
		805,764	805	F	-															
		1062	旧	F	-															
		805,240	805	F	-															
		740	旧	F	-															



第34図　包含層出土遺物　長頸壺，手捏土器，土製品，石器

表９　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（３）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
24	47	B05_169	B05	F	-	1	成川式土器	甕	胴部	指頭圧痕、工具ナデ、ナデ	ハケナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい赤褐色5YR4/4	-	-	(10.3)	-
	48	B05_196	3F	F	-	1	成川式土器	甕	底部	指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ	良好	○	-	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい橙色7.5YR6/4	-	(6.2)	(4.8)	赤色粒
	49	B05_098	B05	F	-	1	成川式土器	壺	口縁部	ハケのちナデ、指頭圧痕	ハケのちナデ、指頭圧痕	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/4	(14.8)	-	(4.8)	-
		B05_180	B05	F	-	1															
	50	B05_123	B05	F	-	1	成川式土器	壺	口縁部～胴部	指頭圧痕、ナデ	ハケナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい橙色7.5YR6/4	にぶい橙色7.5YR6/4	(21.0)	-	(17.4)	-
		B05_001	B05	F	-	1															
		B05_201	B05	F	-	1															
		1542	3F	F	-	1															
		726	3F	F	-	1															
		1324	3F	G	-	2															
		B05_050	B05	F	-	1															
		B05_061	B05	F	-	1															
		B05_060	B05	F	-	1															
		814	3F	F	-	1															
		825	3F	F	-	1															
	51	B05_215	B05	F	-	1	成川式土器	小型壺	口縁部～胴部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR6/3	にぶい黄橙色10YR6/4	(8.2)	-	(14.4)	モミ痕?
		B05_218	B05	F	-	1															
		1550	3F	F	-	1															
		B05_219	B05	F	-	1															
		B05_172	B05	F	-	1															
		B05_173	B05	F	-	1															
		B05_101	B05	F	-	1															
		B05_106	B05	F	-	1															
		B05_129	B05	F	-	1															
		B05_100	B05	F	-	1															
		B05_103	B05	F	-	1															
		821	3F	F	-	1															
		1484	3F	F	-	1															
		881	3F	E	-	2															
		1541	3F	F	-	1															
		B05一括	-	-	-	-															
		B05一括	-	-	-	-															
		B05一括	-	-	-	-															
		一括	-	-	-	-															
	52	B05_064	B05	F	-	1	成川式土器	甕	胴部～底部	ハケナデ、指頭圧痕	ハケナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR6/4	橙色7.5YR6/6	-	-	(15.4)	赤色粒
		B05_029	B05	F	-	1															
		B05_074	B05	F	-	1															
		B05_074	B05	F	-	1															
		B05_038	B05	F	-	1															
		B05_038	B05	F	-	1															
		B05_065	B05	F	-	1															
		B05_116	B05	F	-	1															
		B05_065	B05	F	-	1															
		B05_238	B05	F	-	1															
		B05_115	B05	F	-	1															
		824	3F	F	-	1															
		B05_131	B05	F	-	1															
		B05_139	B05	F	-	1															
		B05_231	B05	F	-	1															
		B05一括	-	-	-	-															
	53	B05_090	3F	E	-	3	成川式土器	長頸壺	口縁部～胴部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	明褐色7.5YR5/6	(11.6)	-	(11.0)	白色粒
25	54	S11_001	S11	G	-	1	成川式土器	大型壺	口縁部～胴部	工具ナデのち丁寧なナデ	工具ナデのち丁寧なナデ	良好	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(26.8)	-	(74.2)	白色粒
		B05_003	B05	F	-	1															
		B05_004	B05	F	-	1															
		S11_004	S11	G	-	1															
		B05_007	B05	F	-	1															
		B05_010	B05	F	-	1															
		B05_011	B05	F	-	1															
		B05_012	B05	F	-	1															
		B05_013	B05	F	-	1															
		B05_014	B05	F	-	1															
		B05_015	B05	F	-	1															
		B05_016	B05	F	-	1															
		B05_017	B05	F	-	1															
		B05_022	B05	F	-	1															
		B05_025	B05	F	-	1															
		B05_031	B05	F	-	1															
		B05_032	B05	F	-	1															
		B05_034	B05	F	-	1															
		B05_036	B05	F	-	1															
		B05_037	B05	F	-	1															
		B05_040	B05	F	-	1															
		B05_041	B05	F	-	1															
		B05_042	B05	F	-	1															
		B05_043	B05	F	-	1															
		B05_044	B05	F	-	1															
		B05_046	B05	F	-	1															
		B05_048	B05	F	-	1															
		B05_049	B05	F	-	1															
		B05_051	B05	F	-	1															
		B05_053	B05	F	-	1															

表10　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（4）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
		B05_054	B05	F	-	1															
		B05_055	B05	F	-	1															
		B05_056	B05	F	-	1															
		B05_057	B05	F	-	1															
		B05_058	B05	F	-	1															
		B05_062	B05	F	-	1															
		B05_063	B05	F	-	1															
		B05_066	B05	F	-	1															
		B05_068	B05	F	-	1															
		B05_069	B05	F	-	1															
		B05_072	B05	F	-	1															
		B05_075	B05	F	-	1															
		B05_076	B05	F	-	1															
		B05_077	B05	F	-	1															
		B05_078	B05	F	-	1															
		B05_082	B05	F	-	1															
		B05_083	B05	F	-	1															
		B05_086	B05	F	-	1															
		B05_088	B05	F	-	1															
		B05_089	B05	F	-	1															
		B05_091	B05	F	-	1															
		B05_092	B05	F	-	1															
		B05_093	B05	F	-	1															
		B05_095	B05	F	-	1															
		B05_096	B05	F	-	1															
		B05_099	B05	F	-	1															
		B05_104	B05	F	-	1															
		B05_107	B05	F	-	1															
		B05_108	B05	F	-	1															
		B05_109	B05	F	-	1															
		B05_110	B05	F	-	1															
		B05_111	B05	F	-	1															
		B05_112	B05	F	-	1															
		B05_113	B05	F	-	1															
		B05_117	B05	F	-	1															
		B05_119	B05	F	-	1															
		B05_120	B05	F	-	1															
		B05_121	B05	F	-	1															
		B05_122	B05	F	-	1															
		B05_124	B05	F	-	1															
		B05_125	B05	F	-	1															
25	34	B05_127	B05	F	-	1	成川式土器	大型甕	口縁部〜胴部	工具ナデのち丁寧なナデ	工具ナデのち丁寧なナデ	良好	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(26.8)	-	(74.2)	白色粒
		B05_128	B05	F	-	1															
		B05_129	B05	F	-	1															
		B05_130	B05	F	-	1															
		B05_132	B05	F	-	1															
		B05_133	B05	F	-	1															
		B05_134	B05	F	-	1															
		B05_135	B05	F	-	1															
		B05_136	B05	F	-	1															
		B05_137	B05	F	-	1															
		B05_138	B05	F	-	1															
		B05_140	B05	F	-	1															
		B05_141	B05	F	-	1															
		B05_142	B05	F	-	1															
		B05_144	B05	F	-	1															
		B05_145	B05	F	-	1															
		B05_146	B05	F	-	1															
		B05_147	B05	F	-	1															
		B05_148	B05	F	-	1															
		B05_149	B05	F	-	1															
		B05_150	B05	F	-	1															
		B05_151	B05	F	-	1															
		B05_152	B05	F	-	1															
		B05_153	B05	F	-	1															
		B05_154	B05	F	-	1															
		B05_155	B05	F	-	1															
		B05_156	B05	F	-	1															
		B05_157	B05	F	-	1															
		B05_158	B05	F	-	1															
		B05_159	B05	F	-	1															
		B05_160	B05	F	-	1															
		B05_162	B05	F	-	1															
		B05_163	B05	F	-	1															
		B05_165	B05	F	-	1															
		B05_166	B05	F	-	1															
		B05_167	B05	F	-	1															
		B05_168	B05	F	-	1															
		B05_170	B05	F	-	1															
		B05_171	B05	F	-	1															
		B05_174	B05	F	-	1															
		B05_176	B05	F	-	1															
		B05_177	B05	F	-	1															

表11　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（5）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
25	34	B05_176	B05	F	-	1	成川式土器	大型壺	口縁部~胴部	工具ナデのち丁寧なナデ	工具ナデのち丁寧なナデ	良好	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(26.8)	-	(74.2)	白色粒
		B05_179	B05	F	-	1															
		B05_181	B05	F	-	1															
		B05_182	B05	F	-	1															
		B05_183	B05	F	-	1															
		B05_184	B05	F	-	1															
		B05_187	B05	F	-	1															
		B05_188	B05	F	-	1															
		B05_191	B05	F	-	1															
		B05_192	B05	F	-	1															
		B05_193	B05	F	-	1															
		B05_197	B05	F	-	1															
		B05_198	B05	F	-	1															
		B05_200	B05	F	-	1															
		B05_203	B05	F	-	1															
		B05_204	B05	F	-	1															
		B05_206	B05	F	-	1															
		B05_207	B05	F	-	1															
		B05_208	B05	F	-	1															
		B05_209	B05	F	-	1															
		B05_210	B05	F	-	1															
		B05_220	B05	F	-	1															
		B05_221	B05	F	-	1															
		B05_222	B05	F	-	1															
		B05_223	B05	F	-	1															
		B05_224	B05	F	-	1															
		B05_225	B05	F	-	1															
		B05_226	B05	F	-	1															
		B05_228	B05	F	-	1															
		B05_232	B05	F	-	1															
		B05_233	B05	F	-	1															
		B05_234	B05	F	-	1															
		B05_237	B05	F	-	1															
		B05_250	B05	F	-	1															
		255	Ⅳ	F	-	2															
		498	Ⅳ	F	-	2															
		592	Ⅳ	G	-	2															
		705	Ⅳ	F	-	2															
		718	Ⅳ	F	-	2															
		744	Ⅳ	F	-	2															
		746	Ⅳ	F	-	2															
		782	Ⅳ	F	-	1															
		815	Ⅳ	F	-	1															
		820	Ⅳ	F	-	1															
		825	Ⅳ	F	-	1															
		832	Ⅳ	F	-	1															
		841	Ⅳ	F	-	1															
		852	Ⅳ	F	-	1															
		868	Ⅳ	F	-	1															
		872	Ⅳ	F	-	1															
		926	Ⅳ	F	-	1															
		941	Ⅳ	F	-	1															
		976	Ⅳ	F	-	1															
		983	Ⅳ	F	-	1															
		986	Ⅳ	F	-	1															
		1302	Ⅳ	G	-	2															
		1314	Ⅳ	G	-	2															
		1320	Ⅳ	G	-	2															
		1323	Ⅳ	G	-	2															
		1329	Ⅳ	G	-	2															
		1331	Ⅳ	G	-	2															
		1346	Ⅳ	G	-	2															
		1348	Ⅳ	G	-	2															
		1349	Ⅳ	G	-	2															
		1351	Ⅳ	G	-	2															
		1355	Ⅳ	G	-	2															
		1357	Ⅳ	G	-	1															
		1359	Ⅳ	G	-	1															
		1360	Ⅳ	G	-	1															
		1365	Ⅳ	G	-	1															
		1390	Ⅳ	F	-	1															
		1421	Ⅳ	G	-	1															
		1463	Ⅳ	G	-	1															
		1468	Ⅳ	G	-	1															
		1476	Ⅳ	F	-	1															
		1482	Ⅳ	F	-	1															
		1487	Ⅳ	F	-	1															
		1490	Ⅳ	F	-	1															
		1491	Ⅳ	F	-	1															
		1492	Ⅳ	F	-	1															
		1495	Ⅳ	F	-	1															

表12　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（6）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	色調（内面）	色調（外面）	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	備考
25	54	1521	Ⅳ	G-1	成川式土器	大型壺	口縁部～胴部	工具ナデのち丁寧なナデ	工具ナデのち丁寧なナデ	良好	○	○	○	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(26.8)	-	(74.2)	白色粒
		1537	Ⅳ	F-1															
		1538	Ⅳ	F-1															
		1546	Ⅳ	F-1															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
		D03-一括	-	-															
		一括	-	-															
26	55	D01_002	D01	F-2	成川式土器	壺	口縁部～胴部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR5/4	(22.4)	8.4	21.5	スス付着
		D01_005	D01	F-2															
		D01_006	D01	F-2															
		D01_011	D01	F-2															
		D01_014	D01	F-2															
		D01_015	D01	F-2															
		D01_025	D01	F-2															
		D01_026	D01	F-2															
		D01_027	D01	F-2															
		D01_028	D01	F-2															
		D01_029	D01	F-2															
		D01_031	D01	F-2															
		D01_032	D01	F-2															
		D01_033	D01	F-2															
		D01_034	D01	F-2															
		D01_035	D01	F-2															
		D01_036	D01	F-2															
		D01_037	D01	F-2															
		D01_038	D01	F-2															
		D01_039	D01	F-2															
		D01_040	D01	F-2															
		D01_041	D01	F-2															
		D01_042	D01	F-2															
		D01_043	D01	F-2															
	56	D01_007	D01	F-2	成川式土器	壺	胴部～底部	ナデ	工具ナデ、ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR5/4	-	(7.8)	(18.4)	-
		D01_047	D01	F-2															
		D01_053	D01	F-2															
		D01_048	D01	F-2															
		680	Ⅳ	F-2															
		D01_045	D01	F-2															
		D01_046	D01	F-2															
		D01_044	D01	F-2															
		812	Ⅳ	F-2															
		534	Ⅳ	F-2															
		一括	-	-															
		一括	-	-															
	57	D02_001	D02	F-2	成川式土器	壺	口縁部～胴部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ	普通	○	○	○	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい赤褐色2.5YR4/4	(15.2)	6.7	16.7	-
		D02_003	D02	F-2															
		D02_004	D02	F-2															
		D02_007	D02	F-2															
		D02_011	D02	F-2															
		D02_012	D02	F-2															
		D02_014	D02	F-2															
		D02_017	D02	F-2															
		D02_016	D02	F-2															
		D02_019	D02	F-2															
		D02_018	D02	F-2															
		一括	-	-															
	58	D03_022	D03	F-2	成川式土器	壺	胴部	指頭圧痕、ナデ	ハケナデ、ナデ	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/3	黄褐色10YR5/6	-	-	(16.2)	-
		D04_003	D04	F-2															
		D04_007	D04	F-2															
		D04_004	D04	F-2															
		D04_002	D04	F-2															
		D04_005	D04	F-2															
		D04_012	D04	F-2															
	59	D06_041	D06	G-1	成川式土器	壺	胴部～底部	ナデ、指頭圧痕	ハケメ、ナデ	良好	○	○	-	にぶい橙色7.5YR7/4	にぶい黄橙色10YR5/4	-	3.2	(27.6)	-
		D06_024	D06	G-1															
		D06_003	D06	G-1															
		D06_013	D06	G-1															
		D06_032	D06	G-1															
		D06_036	D06	G-1															

表13　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（７）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土 石英	長石	角閃石	色調（内面）	色調（外面）	法量(cm) 口径	底径	器高	備考
28	59	B06_046	B06	G	-	1	成川式土器	壺	胴部〜底部	ナデ、指頭圧痕	ハケメ、ナデ	良好	○	○	-	にぶい橙色7.5YR7/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	3.2	(27.6)	-
		B06_037	B06	G	-	1															
		B06_034	B06	G	-	1															
		B06_020	B06	G	-	1															
		B06_019	B06	G	-	1															
		B06_029	B06	G	-	1															
		B06_015	B06	G	-	1															
		B06_006	B06	G	-	1															
		B06_021	B06	G	-	1															
		B06_009	B06	G	-	1															
		B06_004	B06	G	-	1															
		B06_016	B06	G	-	1															
		B06_035	B06	G	-	1															
		B06_047	B06	G	-	1															
		B06_049	B06	G	-	1															
		B06_048	B06	G	-	1															
		B06_037	B06	G	-	1															
		B06_032	B06	G	-	1															
		B06_042	B06	G	-	1															
		B06_036	B06	G	-	1															
		B06_040	B06	G	-	1															
		B06_039	B06	G	-	1															
		B06_044	B06	G	-	1															
		B06一括	-	-	-	-															
	60	1628	3F	F	-	1	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	ハケナデ、ナデ	ハケナデ、ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	明褐色7.5YR5/6	(24.3)	-	(22.5)	スス付着
		B07_004	B07	F	-	1															
		B07_003	B07	F	-	1															
		B07_014	B07	F	-	1															
		B07_012	B07	F	-	1															
		B07_002	B07	F	-	1															
		B07_013	B07	F	-	1															
		B07_020	B07	F	-	1															
		B07_019	B07	F	-	1															
		B07_024	B07	F	-	1															
		B07_016	B07	F	-	1															
		B07_026	B07	F	-	1															
		B07_025	B07	F	-	1															
		B07_028	B07	F	-	1															
		B07_022	B07	F	-	1															
		B07_021	B07	F	-	1															
		B07_023	B07	F	-	1															
		B07_005	B07	F	-	1															
		B07_001	B07	F	-	1															
		B07_008	B07	F	-	1															
		B07_006	B07	F	-	1															
		B07_007	B07	F	-	1															
		B07_009	B07	F	-	1															
		B07_010	B07	F	-	1															
		B07_027	B07	F	-	1															
29	61	1213	3F	B	-	2	成川式土器	甕	口縁部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	褐色7.5YR4/6	黒褐色7.5YR3/2	(21.8)	-	(2.7)	-
		1215	3F	B	-	2															
	62	1121	3F	B	-	2	成川式土器	甕	口縁部	工具ナデのちナデ	ナデ	普通	○	-	○	黒褐色10YR3/1	にぶい黄橙色10YR4/3	(18.2)	-	(4.5)	-
	63	1209	3F	B	-	2	成川式土器	甕	口縁部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	良好	○	○	○	にぶい黄褐色10YR5/3	褐色7.5YR4/4	(13.8)	-	(6.5)	-
		1207	3F	B	-	2															
		1211	3F	B	-	2															
	64	一括	3F	F	-	1	成川式土器	甕	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	橙色7.5YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/3	(20.8)	-	(7.7)	-
	65	926	3F	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	ハケメ、ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	○	橙色7.5YR6/6	にぶい黄橙色10YR7/4	(29.0)	-	(13.2)	-
		875	3F	F	-	1															
		874	3F	F	-	1															
	66	1696	3F	C	-	4	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	良好	○	○	-	褐色7.5YR4/4	にぶい赤褐色5YR4/4	(21.2)	-	(6.7)	白色粒
	67	551	3F	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ	良好	○	○	-	黄橙色10YR8/6	にぶい褐色7.5YR5/4	(34.2)	-	(6.7)	-
	68	646	3F	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	橙色7.5YR6/6	(24.0)	-	(5.2)	-
		644	3F	F	-	2															
		557	3F	F	-	2															
	69	861	3F	F	-	1	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	○	にぶい褐色7.5YR5/4	明褐色7.5YR5/6	(22.8)	-	(9.8)	-
	70	1267	3F	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	ハケのちナデ、指頭圧痕	ハケのちナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	明黄褐色10YR6/6	橙色7.5YR6/6	(21.8)	-	(6.1)	-
		1274	3F	E	-	1															
		643	3F	F	-	2															
	71	558	3F	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部〜胴部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	良好	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/3	にぶい黄橙色10YR6/4	(32.4)	-	(8.3)	-
		572	3F	F	-	2															
		一括	-	-	-	-															
30	72	1573	3F	G	-	2	成川式土器	甕	胴部	工具ナデ、ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	黒褐色10YR3/2	黒褐色10YR3/2	-	-	-	-
		1572	3F	G	-	2															
		一括	-	G	-	1-2															
	73	996	3F	F	-	1	成川式土器	甕	胴部	ハケのちナデ	ナデ	普通	○	○	-	明赤褐色2.5YR5/6	明赤褐色5YR5/6	-	-	-	-
		1611	3F	F	-	1															
		649	3F	F	-	2															
		663	3F	F	-	1															
	74	900	3F	E	-	2	成川式土器	甕	胴部	工具ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	普通	○	○	-	にぶい橙色7.5YR6/4	にぶい黄橙色10YR7/4	-	-	-	-
		902	3F	E	-	2															
		1006	3F	E	-	2															
	75	1415	3F	G	-	1	成川式土器	甕	底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	灰褐色7.5YR4/2	灰黄褐色10YR4/2	-	6.7	(4.7)	赤色粒
	76	522	3F	F	-	2	成川式土器	甕	底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	-	(7.8)	(4.0)	-

表14　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（８）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（外面）	調整（内面）	焼成	胎土			色調（外面）	色調（内面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
30	76	306	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	甕	脚部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	-	(7.8)	(4.0)	-
	77	1562	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	脚部	工具ナデ	ハケメ、ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/4	-	(8.6)	(2.9)	-
		1425	Ⅳ	G	-	1															
		1531	Ⅳ	G	-	1															
	78	1306	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	脚部	ナデ、指頭圧痕	ハケのちナデ	良好	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	明褐色7.5YR5/6	-	(10.0)	(4.0)	-
		1369	Ⅳ	F	-	1															
	79	402	Ⅳ	E	-	2	成川式土器	甕	脚部〜胴部	ナデ、指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	-	黒褐色10YR3/1	明褐色7.5YR5/6	-	-	-	小礫
		一括	-	F-G	-	2															
		890	Ⅳ	E	-	2															
		414	Ⅳ	E	-	2															
		一括	-	-	-	-															
	80	1338	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	甕	脚部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	褐色7.5YR4/4	-	(9.2)	(6.3)	小礫
	81	581	Ⅳ	G	-	2	成川式土器	甕	脚部	工具ナデ	ナデ	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色7.5YR5/4	-	(7.8)	(2.8)	-
		1570	Ⅳ	G	-	1															
	82	1423	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	脚部	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	良好	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	(9.4)	(3.6)	-
31	83	35	Ⅳ	D	-	4	成川式土器	壺	口縁部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	灰黄褐色10YR5/2	にぶい黄橙色10YR6/3	(12.4)	-	(3.8)	-
	84	492	Ⅳ	G	-	2	成川式土器	壺	口縁部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	○	明褐色7.5YR5/6	橙色7.5YR6/6	(15.2)	-	(2.7)	-
		1290	Ⅳ	F	-	2															
	85	491	Ⅳ	G	-	2	成川式土器	壺	頸部〜胴部	ナデ	ナデ	良好	○	○	-	褐色7.5YR4/6	にぶい黄褐色10YR4/3	-	-	-	-
		813,855	813	E	-	3															
	86	1284	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部（突帯）	ナデ	ナデ	良好	○	○	-	褐色7.5YR4/6	にぶい黄褐色10YR4/3	-	-	-	-
	87	1234	Ⅳ	E	-	4	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ハケのちナデ	良好	○	○	○	にぶい黄色2.5Y6/3	にぶい褐色7.5YR5/4	-	-	-	白色粒
	88	1594	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR7/4	-	-	-	-
	89	409	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	ハケのちナデ	ナデ	普通	○	○	○	褐灰色7.5YR6/1	明褐色7.5YR5/6	-	-	-	-
	90	246	Ⅳ	G	-	2	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR7/4	にぶい黄橙色10YR6/3	-	-	-	-
	91	536	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部（突帯）	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄褐色10YR5/3	明黄褐色10YR6/6	-	-	-	-
	92	989	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ハケのちナデ	良好	○	○	○	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	-	-	-
	93	923	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	壺	口縁部〜胴部	ハケのちナデ、指頭圧痕	ハケのちナデ	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	明褐色7.5YR5/6	(10.3)	-	(16.5)	赤色粒
		845	Ⅳ	F	-	1															
		1549	Ⅳ	F	-	1															
		1326	Ⅳ	F	-	1															
		992	Ⅳ	F	-	1															
		865_142	865	F	-	1															
		991	Ⅳ	F	-	1															
		1479	Ⅳ	F	-	1															
		737	Ⅳ	F	-	1															
		一括	-	-	-	-															
	94	865_189	865	F	-	1	成川式土器	壺	胴部	工具ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	明赤褐色5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/3	-	-	-	赤色粒
		865_194	865	F	-	1															
		979	Ⅳ	F	-	1															
		975	Ⅳ	F	-	1															
		865一括	-	-	-	-															
		一括	-	F-G	-	1・2															
	95	888	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	壺	胴部	ナデ、指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	-	-	-	-
	96	1434	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	小型壺	胴部	指頭圧痕、ナデ	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	黄褐色2.5Y5/4	黄褐色10YR5/6	-	-	-	白色粒
		1328	Ⅳ	G	-	2															
		1419	Ⅳ	G	-	1															
	97	1400	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	壺	胴部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ	良好	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	明黄褐色10YR6/6	-	-	-	-
	98	146	Ⅳ	E	-	5	成川式土器	壺	胴部（突帯）	ハケのちナデ、指頭圧痕	ハケのちナデ	良好	○	-	-	にぶい黄橙色10YR6/3	オリーブ黒色7.5Y3/1	-	-	-	白色粒
	99	1276	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部（突帯）	工具ナデ、ナデ	ハケのち工具ナデ	良好	○	○	-	黒褐色10YR3/1	明褐色7.5YR5/6	-	-	-	白色粒
	100	1279	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	良好	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/3	にぶい褐色7.5YR5/4	-	-	-	-
		一括	-	-	-	-															
32	101	1584	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	にぶい赤褐色5YR5/4	にぶい黄褐色10YR4/3	-	-	-	-
	102	549	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	工具ナデ	ハケ、ナデ	良好	○	○	-	黒褐色10YR3/1	にぶい黄褐色10YR4/3	-	-	-	-
	103	1582	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	ナデ、指頭圧痕	ナデ	良好	○	○	○	明褐色7.5YR5/6	黒褐色7.5YR3/1	-	-	-	-
	104	595	Ⅳ	G	-	2	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ナデ	普通	○	○	○	黒褐色10YR3/1	褐色7.5YR4/3	-	-	-	-
	105	828	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部	ナデ	ナデ	良好	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/4	-	-	-	-
		1440	Ⅳ	E	-	2															
	106	86	Ⅳ	D	-	4	成川式土器	壺	底部	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	普通	○	-	-	明褐色7.5YR5/6	黒褐色7.5YR3/1	-	(4.4)	(3.4)	-
		73	Ⅳ	D	-	3															
	107	1065	Ⅳ	D	-	2	成川式土器	壺	胴部〜底部	ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	明黄褐色10YR6/6	にぶい黄橙色10YR6/4	-	3.2	(15.8)	砂粒
		1082	Ⅳ	D	-	2															
		1080	Ⅳ	D	-	2															
		1068	Ⅳ	D	-	2															
		1054	Ⅳ	D	-	2															
		1099	Ⅳ	D	-	2															
		1096	Ⅳ	D	-	2															
		1097	Ⅳ	D	-	2															
		1059	Ⅳ	D	-	2															
		1055	Ⅳ	D	-	2															
		1095	Ⅳ	D	-	2															
		1098	Ⅳ	D	-	2															
		1085	Ⅳ	D	-	2															
		1090	Ⅳ	D	-	2															
	108	839	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	壺	胴部〜底部	工具ナデ	ナデ	普通	○	○	○	明褐色7.5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	-	(2.0)	(12.7)	-
		865_186	Ⅳ	C	-	5															
		976	Ⅳ	F	-	1															
		992	Ⅳ	F	-	1															
		865_213	Ⅳ	G	-	2															
		989	Ⅳ	F	-	1															
		1473	Ⅳ	F	-	1															

表15　弥生・古墳時代包含層出土土器観察表（9）

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド			種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	焼成	胎土			色調（内面）	色調（外面）	法量(cm)			備考
													石英	長石	角閃石			口径	底径	器高	
32	108	1538	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	壺	胴部～底部	工具ナデ	ナデ	普通	○	○	○	明褐色7.5YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	-	(2.0)	(12.7)	-
		一括	Ⅳ	F	-	1															
		303一括	Ⅳ	F	-	1															
		一括	Ⅳ	F	-	1															
	109	701	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部～底部	工具ナデ、指頭圧痕	工具ナデ	良好	○	○	○	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	(5.8)	(13.3)	-
		929	Ⅳ	F	-	2															
		930	Ⅳ	F	-	2															
		987	Ⅳ	F	-	2															
	110	588	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	壺	胴部～底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄褐色10YR5/4	-	8.4	(8.5)	-
		589	Ⅳ	F	-	2															
		879	Ⅳ	F	-	1															
		一括	-	-	-	-															
	111	174	Ⅳ	B	-	4	成川式土器	壺	底部	ハケのちナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	○	にぶい橙色7.5YR6/4	オリーブ黒色5Y3/1	-	(7.9)	(2.7)	-
33	112	912	Ⅳ	E	-	2	成川式土器	甕	口縁部	ハケのちナデ、工具ナデ	工具ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	にぶい黄橙色10YR6/4	(27.0)	-	(4.0)	-
	113	1553	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	甕	口縁部～胴部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	(12.2)	-	(9.9)	-
		1556	Ⅳ	F	-	1															
		1555	Ⅳ	F	-	1															
		1554	Ⅳ	F	-	1															
		SI1_306	SI1	G	-	1															
	114	1404	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	口縁部～胴部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	-	にぶい黄色2.5Y6/3	にぶい黄橙色10YR6/3	(11.0)	-	(5.7)	-
	115	1413	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	口縁部～胴部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	-	にぶい黄色2.5Y6/3	にぶい黄橙色10YR6/4	(11.0)	-	(6.0)	-
	116	1426	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	口縁部～胴部	工具ナデ、ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい橙色7.5YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	(7.8)	-	(4.4)	-
		1527	Ⅳ	G	-	1															
	117	1435	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	胴部～底部	指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ	普通	○	○	○	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	6.1	(7.8)	-
	118	1146	Ⅳ	B	-	2	成川式土器	甕	底部～脚部	ハケ、指頭圧痕	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR7/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	-	-	赤色粒
		1147	Ⅳ	B	-	2															
		1148	Ⅳ	B	-	2															
		1151	Ⅳ	B	-	2															
	119	1365	Ⅳ	G	-	1	成川式土器	甕	口縁部～底部	工具ナデ、指ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ハケメ、指頭圧痕	良好	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	にぶい黄橙色10YR6/4	9.6	3.0	9.6	-
		一括	-	-	-	-															
	120	507	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	甕	口縁部	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ、ナデ	良好	○	○	-	黄褐色10YR5/6	にぶい褐色7.5YR5/4	(17.0)	-	(5.6)	-
	121	833	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	甕	脚部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	-	にぶい橙色7.5YR6/4	にぶい黄褐色10YR5/4	-	(6.4)	(3.8)	-
		一括	Ⅳ	F	-	2															
	122	1006	Ⅳ	E	-	1	成川式土器	甕	底部～脚部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	橙色7.5YR6/6	橙色7.5YR6/6	-	-	-	-
	123	299	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	甕	脚部	ナデ	ハケのちナデ	普通	○	○	-	褐灰色10YR4/1	にぶい黄橙色10YR6/3	-	-	-	白色粒
	124	935	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	甕	底部～脚部	ナデ	ナデ	普通	○	○	-	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	-	-	-	-
	125	838	Ⅳ	F	-	1	成川式土器	甕	底部	タタキ	ミガキ	良好	○	○	-	黒褐色10YR3/1	にぶい黄褐色10YR5/4	-	2.4	(2.4)	石英粒が多い
34	126	721	Ⅳ	F	-	2	成川式土器	長頸壺	口縁部	ハケメ、工具ナデ	指ナデ、工具ナデ	普通	○	○	-	明褐色7.5YR5/6	黄褐色10YR5/6	(12.0)	-	(7.3)	赤色粒
	127	1427	Ⅳ	G	-	1	手捏ね土器	鉢	口縁部～底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	良好	○	○	-	褐色10YR4/4	褐色10YR4/4	(4.0)	(3.0)	3.4	-
	128	1330	Ⅳ	B	-	2	手捏ね土器	鉢	口縁部～底部	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	黒褐色10YR3/2	-	(4.0)	(4.0)	-
	129	1388	Ⅳ	G	-	1	手捏ね土器	壺	胴部～底部	指頭圧痕	指頭圧痕	良好	○	-	-	灰黄褐色10YR5/2	灰黄褐色10YR5/2	-	-	3.5	-
	130	244	Ⅳ	G	-	2	土製品	円盤状	不明	指頭圧痕	指頭圧痕	普通	○	○	-	にぶい褐色7.5YR5/4	にぶい褐色7.5YR5/4	-	-	-	-

表16　弥生・古墳時代包含層出土石器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	グリッド			層位	器種	石材	計測値				備考
									最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	-
34	131	585	G	-	1	Ⅳ	石包丁	頁岩	37.0	51.5	5.5	6.8	-
	132	194	C	-	3	Ⅳ	凹石	凝灰岩	97.5	78.5	43.0	582.0	-

は同一層，各グリッドの一括で取り上げを行い，大形の破片については，各遺物の種類，出土層を台帳に記録した後，トータルステーションを用いて座標，レベルを記録した。

遺構については，Ⅳ層上面で遺構確認の精査を実施し，Ⅳ層掘削時，面的には判然としないが，断面で観察すると若干上下で，色調の異なることが判明し，確認できるところではⅣ層をａ・ｂ層の２層に分層しⅣｂ層上面での精査も試みた。一部のピットはⅣｂ層上面で確認できたが，Ⅳｂ層下位の白色パミスが多くなるレベルまで掘り下げが進行しないと遺構の検出は難しかった。Ｃ－４区～Ｄ－５区周辺にピット群が検出されたが，建物配置の確認には至らなかった。ピット群周辺に遺物が散在する傾向が伺えた。

当該期の遺構は，かまど状遺構３基，検出順にかまど状遺構１号から３号と呼称した。かまど状遺構は４分割もしくは６分割して，１区画ずつ掘り下げ検出を行い，埋土状況の写真撮影，図面記録などを行いながら，掘り拡げていき，完掘した。

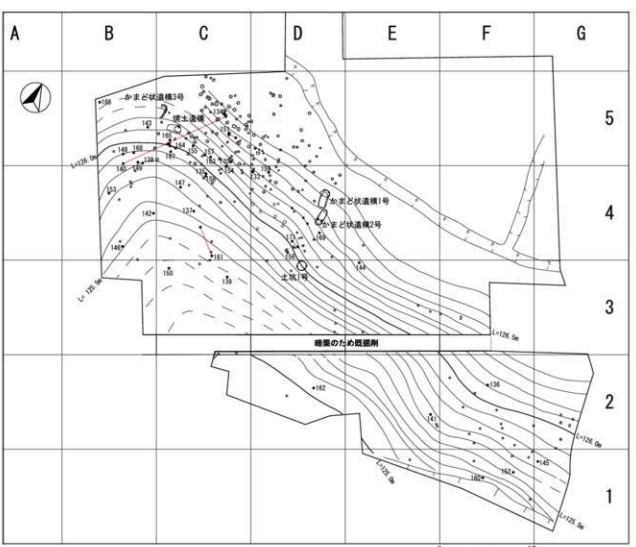
その他に，かまど状遺構３号に隣接して焼土遺構が１カ所検出された。焼土遺構に関しては半截調査を行った。さらに土坑が１基確認され，埋土を半截して掘り下げを行ったが，Ⅶ層下に掘削が及んだところで激しい湧水があり崩落の危険もあったため，そこで掘り下げは断念した。

(2)遺構

かまど状遺構１号（第35・36図）

Ｄ－４区でⅣ層掘り下げ中，広範囲に焼土塊，焼土粒，焼成粘土塊が確認された。精査の結果，長軸194cm，短軸80cm～100cm程度の平面が長方形を呈する掘り込みと判明した。

掘り込み北側壁面付近には，弧状の明赤褐色に焼けた炉壁が確認でき，北側に炉，南側に灰出しを形成すると思われる。



第35図　中世・近世遺構配置及び遺物出土状況

炉部の埋土には大量の焼成粘土塊が含まれており，これは崩壊した炉壁の一部と考えられる。

掘り込み底面は平坦で境界は無いが，炉部の埋土が褐色土，灰出し部が黒色土と若干の差異が認められる。

遺構が検出された付近の旧地形は北から南へ下る傾斜面であったが，削平を受け平坦となっており，当該遺構が構築された当時も平坦であった可能性が推測される。

かまど状遺構２号（第35・37図）

Ｄ－４区，Ⅴ層上面で検出された。かまど状遺構１号の南側に隣接する。平面形は，長軸186cm，短軸70cm～80cmの長方形を呈する。掘り込みの深さは，北側で10cm程度，南側の深いところで25cm程度となる。

明瞭な炉壁の痕跡は確認できなかったが，北半分の掘り込み周縁に黒褐色の三角堆積がみられ，これが炉壁の痕跡を示していると考えられる。

掘り込み床面は南側へ下るわずかな勾配をもち，南側に２カ所の浅いくぼみが設けられている。

かまど状遺構３号（第35・37図）

Ｃ－５区，Ⅳ層上面で検出された。西側半分が掘削により失われている。平面形は長軸140cm程度，短軸80cm程度の楕円形が想定される。掘り込みの深さは20cmほどである。掘り込みの北側壁面には灰褐色の焼土が弧状に確認でき，炉壁の下部と思われる。掘り込み床面はほぼ平坦で，北側部分に炭化物が多く混じる暗褐色土が厚さ２cm程堆積している。

土坑１号（第37図）

Ｄ－３区で検出された。Ⅳ層掘り下げ中に褐灰色土を埋土とする平面が円形の掘り込みが確認された。

直径100cm～105cmの円形で検出面から約80cmのⅦ層アカホヤ火山灰とⅧ層の境界付近から湧水が始まり，遺構壁面が湧水により崩壊するため，それ以上の掘削が困難となった。

安全を考慮し，埋土の記録と残り半分の埋土の掘削を行い，湧水から下位の掘り下げは断念した。

埋土中からの遺物の出土はなかった。

焼土遺構（第38図）

Ｃ－５区，Ⅳ層上面で検出された。主体部の平面形は直径60cm～70cmの円形を呈する。主体部は微細な焼土粒が密に入る黒色土で形成される。深さは４cmと浅い。底面が赤変するほどの被熱は受けていない。

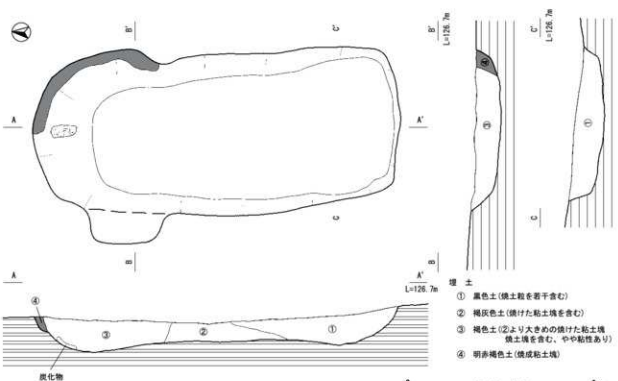
主体部西側に微細焼土粒がまばらに散らばる部分が確認できるが断面で確認できるほどの厚みはみられない。

ピット群（第35図）

Ｃ－４区～Ｄ－５区周辺に径20cm～40cm程度，深さ30cm～60cm程度の掘り込みが集中して検出された。ピット内埋土は黒色でわずかに明るさが異なるものも見られたが，時期差を示す根拠に欠けた。建物等の確認も行ったが，そのような配列も確認できなかった。

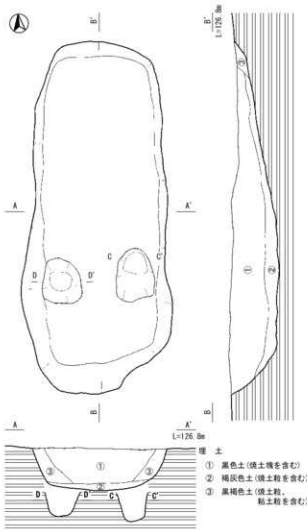
ピット内出土遺物（第39図）

133は，ピット番号１から出土した，瓦質のすり鉢で，

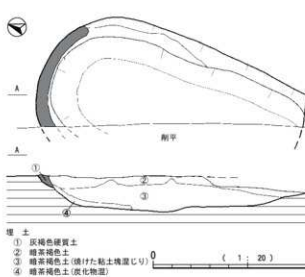


第36図　かまど状遺構１号検出状況

かまど状遺構２号

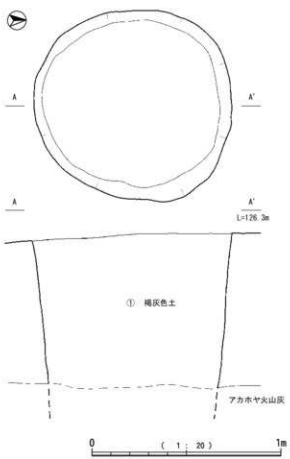


かまど状遺構３号



第37図　かまど状遺構２号・３号・土坑1号検出状況

土坑１号



外開きする胴部に，口唇部を斜めに押さえ込み口唇部は断面三角形を呈する。復元口径26.8cm，底径16cm，器高は10.5cmである。胴部上面には擦り目が残っているが，胴部下半は使用により，擦り目が摩滅して失われている。134は，ピット2から出土した鍋，釜，茶釜等の蓋と思われる破片である。平坦な本体につまみ状の突起がつき，突起部には（図面上）右から左への穿孔が行われている。紐ずれ等の痕跡は確認できない。

(3)遺物（第40・41図）

135～140は土師器である。135，136は小皿で，口縁部がわずかに外反する。136の底部切り離しは不明瞭で判別できない。137～140は坏である。138は外面に煤が付着する。139の底部切り離しは糸切りである。140は体部の立ち上がりが丸みを帯びる。底部切り離しは，不明瞭であるが糸切りと思われる。

141～150は竜泉窯系青磁である。141は碗で，蓮弁文が施される。142は口縁部が大きく外反する坏である。143～145は碗の口縁部である。143，144は無紋で，145は細線により蓮弁文が描かれる。146，147は蓮弁文を有する坏である。148，149は

稜化皿である。150は口縁端部がわずかに外反する皿である。

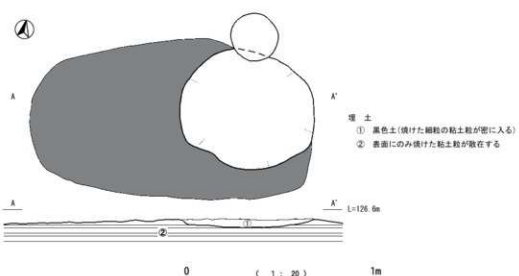
151～153は白磁である。151，152は皿である。151は口縁部が外反する。152は内面に環状の釉剥ぎが施される。外面の釉は腰部までかかり，以下露胎する。155は碗である。白磁としたが，近世磁器の可能性も考えられる。

154～160は青花である。154～158は景徳鎮窯系の碗である。154は口縁部が外側に屈曲する。155は蓮子碗である。156，157は見込みが饅頭心となる碗である。159，160は漳州窯系の皿である。底部は欠損しているが，碁笥底を呈するものと思われる。

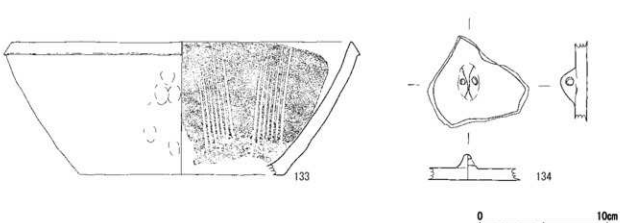
161は中国産の天目碗である。口縁部はスッポン口を呈する。

162は中世陶器の壺の口縁部である。産地は不明である。

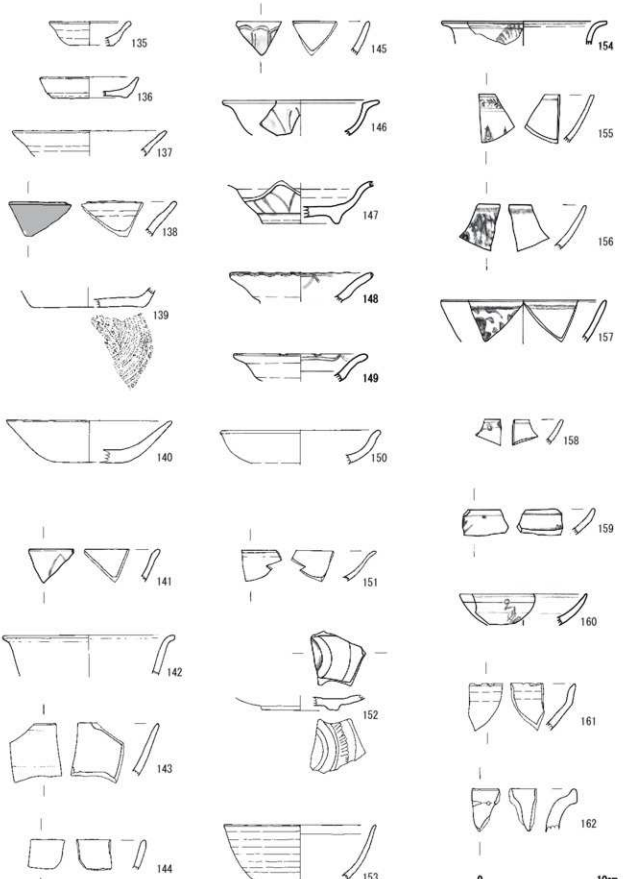
163～171は瓦質土器である。163は釜である。164～167は茶釜もしくは湯釜と思われる。164は羽部より上の部分，166は羽部，165，167は羽部が欠損しているが，羽部より下の部分である。羽部の下面から外底面にかけては，全面に煤が付着する。168は擂鉢である。擂り目は使用により摩滅が激しい。169～171は火鉢と思われる。169，170は口縁部である。169は外側の器面が剥落している。170は外面に煤が付着する。171は底部である。外底面に脚をつけた接合面が見られる。



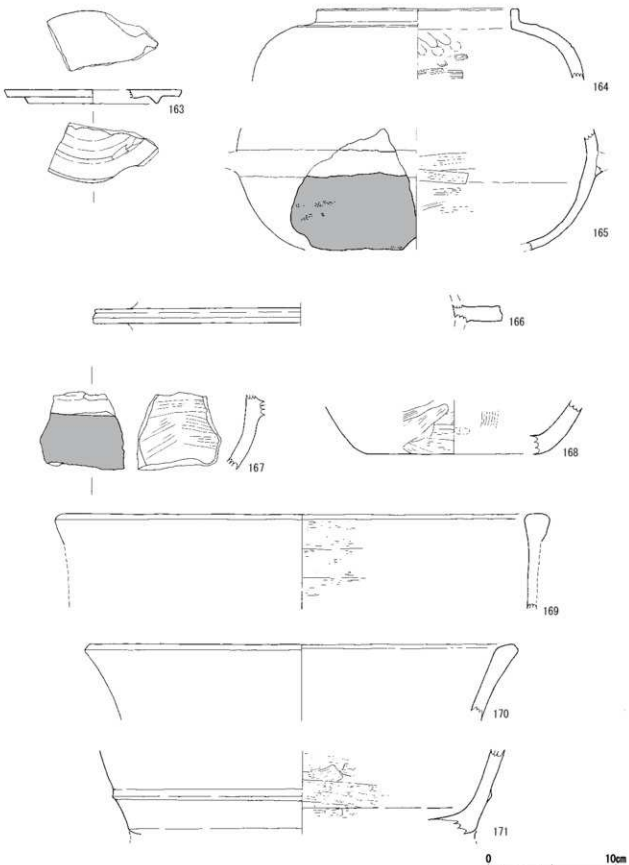
第38図　焼土遺構検出状況



第39図　ピット内出土遺物



第40図　中世・近世包含層出土遺物（１）



第41図　中世・近世包含層出土遺物（２）

表17　中世・近世ピット内出土遺物観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	法量(cm) 口径	底径	器高	時期	焼成	胎土	備考
38	133	P2_1	P2	B-4	瓦質土器	すり鉢	口縁部～底部	ナデ	ナデ、指頭圧痕	灰色5Y4/1	暗灰黄色2.5Y4/2	(26.8)	(16.0)	(10.5)	－	普通	精緻	－
		P2_2	P2	B-4														
	134	P4_1	P4	C-5	瓦質土器	蓋	ツマミ	ナデ	工具ナデ	にぶい橙色7.5YR6/4	明黄褐色10YR6/6	－	－	2.0	－	良好	精緻	－

表18　中世・近世包含層出土土師器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	法量(cm) 口径	底径	器高	時期	焼成	胎土	備考
40	135	1754	Ⅳ	C-4	土師器	小皿	口縁部～底部	不明	不明、摩耗著しい	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(6.30)	(3.40)	1.30	－	普通	精緻	－
	136	261	Ⅳ	F-2	土師器	小皿	口縁部～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい橙色7.5YR6/4	(7.80)	(6.00)	1.65	－	普通	精緻	石英、長石少量混じる
	137	1705	Ⅳ	C-4	土師器	坏	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色10YR7/3	にぶい黄橙色10YR7/3	(12.00)	－	(2.00)	－	普通	精緻	－
	138	149	Ⅲ	B-5	土師器	坏	口縁部	ナデ	ナデ	灰白色10YR8/2	黒10YR2/1	－	－	－	－	良好	精緻	スス付着
	139	1359	Ⅳ	C-3	土師器	坏	胴部～底部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色10YR6/4	にぶい黄橙色10YR6/4	－	(6.00)	(1.60)	－	普通	精緻	－
	140	1763	Ⅳ	C-5	土師器	坏	口縁部～底部	ナデ	ナデ	にぶい橙色7.5YR7/4	にぶい黄橙色10YR7/3	(12.00)	(5.00)	3.30	－	普通	精緻	小礫わずかに混じる
		157	Ⅳ	B-5														

表19　中世・近世包含層出土陶磁器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	胎土の色調	釉薬の種類	施釉部位	法量(cm) 口径	底径	器高	産地	時期	備考
40	141	539	Ⅳ	E-2	青磁	碗	口縁部	灰黄色	青磁釉	残存部全面施釉	－	－	－	竜泉窯系	－	－
	142	180	Ⅳ	B-4	青磁	碗	口縁部	にぶい黄橙色	青磁釉	残存部全面施釉	(13.4)	－	(2.2)	－	－	－
	143	142	Ⅳ	B-5	青磁	碗	口縁部	黄灰色	青磁釉	残存部全面施釉	－	－	－	竜泉窯系	－	－
	144	117	Ⅳ	E-2	青磁	碗	口縁部	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	－	－	－	竜泉窯系	15c	－
	145	341	Ⅳ	G-1	青磁	碗	口縁部	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	－	－	－	竜泉窯系	－	－
	146	172	Ⅳ	B-4	青磁	坏	口縁部	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	(12.2)	－	(2.7)	竜泉窯系	－	－
	147	1665	Ⅳ	C-4	青磁	坏	胴部～底部	灰色	青磁釉	高台内畳付に釉剥ぎ	－	(6.0)	(3.3)	竜泉窯系	14c後・末～	－
	148	155	Ⅳ	B-5	青磁	稜花皿	口縁部～胴部	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	(10.4)	－	(2.7)	竜泉窯系	14c後・末～	－
	149	150	Ⅳ	B-5	青磁	稜花皿	口縁部～胴部	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	(10.6)	－	(2.1)	竜泉窯系	14c後・末～	－
	150	1742	Ⅳ	C-4	青磁	皿	口縁部～胴部	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	(12.4)	－	(2.6)	竜泉窯系	14c後・末～	－
	151	1642	Ⅳ	C-5	白磁	皿	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	－	－	－	－	－	近世磁器の可能性もある
		1643	Ⅳ	C-5												
	152	347	Ⅳ	F-1	白磁	皿	胴部～底部	灰白色	透明釉	見込み輪状に釉剥ぎ胴部～高台内面露胎	－	(6.0)	(1.2)	－	－	－
	153	166	Ⅱ	B-4	白磁	碗	口縁部～胴部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	(12.0)	－	(4.4)	－	－	－
	154	1761	Ⅲ	C-4	青花	碗	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	(13.2)	－	(1.6)	景徳鎮窯系	14c後～15c中	－
	155	1657	Ⅳ	C-5	青花	碗	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	－	－	－	漳州窯系	15c後～16c中	－
	156	186	Ⅳ	D-4	青花	碗	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	－	－	－	景徳鎮窯系	15c後～16c中	－
	157	1714	Ⅲ	C-4	青花	碗	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	(13.0)	－	(3.3)	景徳鎮窯系	16c中～後	－
	158	1652	Ⅲ	C-5	青花	碗	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	－	－	－	漳州窯系	15c後～16c中	－
	159	1230	Ⅳ	D-4	青花	皿	口縁部～胴部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	－	－	－	漳州窯系	15c後～16c中	－
	160	366	Ⅳ	F-1	青花	皿	口縁部	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	(16.0)	－	(2.9)	漳州窯系	15c後～16c中	－
	161	1686	Ⅳ	C-4	陶器	天目茶碗	口縁部	灰色	黒褐色釉	外面腰部以下露胎	－	－	－	中国	－	－
		1701	Ⅳ	C-4												
	162	1050	Ⅳ	D-2	炻器	甕	口縁部	黄灰色	－	残存部全面施釉	－	－	－	－	－	－

表20　中世・近世包含層出土瓦器観察表

挿図番号	掲載番号	取上番号	層	グリッド	種別	器種	部位	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	法量(cm) 口径	底径	器高	産地	時期	焼成	胎土	備考
41	163	1651	Ⅳ	C-5	瓦質土器	蓋	－	ナデ	工具ナデのちナデ	黄灰色2.5Y5/1	灰色7.5Y4/1	(14.00)	(10.20)	1.15	－	－	普通	精緻	白色粒混
	164	171	Ⅳ	C-5	瓦質土器	茶釜	口縁部～胴部	指頭圧痕、ナデ	ナデ	橙色7.5YR6/6	橙色7.5YR6/6	(16.00)	－	(5.70)	－	－	普通	精緻	石英、長石、小礫混
		185	Ⅳ	C-5															
		190	Ⅳ	C-5															
		176	Ⅳ	C-5															
		178	Ⅳ	C-5															
	165	176	Ⅳ	C-5	瓦質土器	茶釜	脚部	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	褐灰色10YR4/1	黒褐色10YR3/2	－	－	(5.60)	－	－	普通	精緻	－
	166	134	Ⅱ	B-5	瓦質土器	茶釜	つば	ナデ	ナデ	橙色7.5YR6/6	橙色7.5YR6/6	－	－	(1.30)	－	－	普通	精緻	石英、長石、赤色粒混
	167	183	Ⅳ	C-5	瓦質土器	茶釜	胴部	ナデ	工具ナデ	灰黄褐色10YR6/2	黒色10YR1.7/1	－	－	－	－	－	普通	精緻	石英、赤色粒、小礫混
	168	153	Ⅲ	B-5	須恵器	すり鉢	底部	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	明赤褐色5YR5/6	明赤褐色5YR5/6	－	(13.40)	(4.30)	－	－	堅緻	精緻	石英、長石混
	169	131	Ⅳ	D-4	瓦質土器	火鉢	口縁部	工具ナデ	ナデ	明黄褐色10YR6/6	不明	(38.00)	－	(7.50)	－	－	良好	精緻	石英、小礫少量混
	170	1635	Ⅳ	C-5	瓦質土器	火鉢	口縁部	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙色10YR7/4	にぶい橙色7.5YR7/4	(33.40)	－	(6.90)	－	－	普通	精緻	石英混
	171	28	Ⅳ	D-4	瓦質土器	火鉢	胴部	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	黄灰色2.5Y4/1	にぶい黄橙色10YR6/3	－	－	－	－	－	普通	精緻	－
		33	Ⅳ	D-4															

第４章　自然科学分析

鍛冶園遺跡における放射性炭素年代
（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

鍛冶園遺跡は，鹿児島県南九州市知覧町瀬世（北緯31.3458237°，東経130.430067°）に所在する。測定対象試料は，竪穴住居跡やかまど状遺構から出土した炭化材2点である（表1）。なお，試料1については，同一試料の樹種同定が実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

２　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA処理における酸処理では，通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」，1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（３）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

３　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し，^{14}Cの計数，^{12}C濃度（^{13}C/^{12}C），^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

４　算出方法

（１）δ^{13}C は，試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に，補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は，下1桁を丸めて10年単位で表示される。また，^{14}C年代の誤差（±1σ）は，試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は，標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し，pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため，補正した値を表1に，補正していない値を参考値として表2に示した。

（４）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の14C濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ^{13}C補正を行い，下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い，OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は，^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

５　測定結果

試料の測定結果を表1，2に示す。

試料の^{14}C年代は，1が1930±20yrBP，2が610±20yrBPである。暦年較正年代（1σ）は，1が54～122cal AD，2が1306～1397cal ADの間に各々複数の範囲で示される。1は弥生時代後期頃，2は鎌倉時代末から室町時代初期頃

に相当する。（藤尾2009，佐原2005）

なお，試料1が含まれる1～3世紀頃の暦年較正に関しては，北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある。（尾寄2009，坂本2010など）その日本版較正曲線を用いてこの試料の測定結果を暦年較正した場合，ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で，化学処理，測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360

藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代，西本豊弘編，新弥生時代のはじまり　第4巻　弥生農耕のはじまりとその年代，雄山閣，9-54

尾寄大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代，設楽博己，藤尾慎一郎，松木武彦編弥生時代の考古学1　弥生文化の輪郭，同成社，225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分，ウェルナー・シュタインハウス監修，奈良文化財研究所編集，日本の考古学　上　ドイツ展記念概説，学生社，14-19

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－，第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集，（株）加速器分析研究所，85-90

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon 19(3), 355-363

表１放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

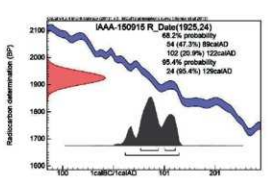
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C（‰）(AMS)			δ ^{13}C 補正あり Libby Age (yrBP)				pMC (%)		
IAAA-150915	1	竪穴住居跡１号　埋土中	炭化材	AaA	-23.89	±	0.4	1,930	±	20		78.68	±	0.24
IAAA-150916	2	カマド状遺構１号　埋土中	炭化材	AAA	-23.75	±	0.38	610	±	20		92.74	±	0.27

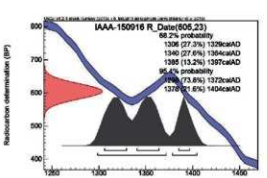
［#7518］

表２　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値，暦年較正用^{14}C年代，較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし Age (yrBP)			pMC (%)			暦年較正用 (yrBP)			1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
IAAA-150915	1,910	±	20	78.86	±	0.23	1,925	±	24	54calAD - 89calAD (47.3%) 102calAD - 122calAD (20.9%)	24calAD - 129calAD (95.4%)
IAAA-150916	590	±	20	92.97	±	0.26	605	±	23	1306calAD - 1329calAD (27.3%) 1340calAD - 1364calAD (27.6%) 1385calAD - 1397calAD (13.2%)	1298calAD - 1372calAD (73.8%) 1378calAD - 1404calAD (21.6%)

［参考数値］





［図版］暦年較正年代グラフ（参考）

はじめに

鍛冶園遺跡の住居跡から出土した柱材の可能性がある炭化材について，木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

1　試料

試料は，竪穴住居跡1号の埋土中から出土した炭化材1点（試料番号1）である。住居内床面より約10cm程度上位で出土していることから柱材の可能性があるとされている。なお，同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている（別稿年代測定報告参照）。

2　分析方法

試料を自然乾燥させた後，木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し，実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し，その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また，日本産樹木の木材組織については，林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3　結果

炭化材は，広葉樹のコナラ属アカガシ亜属に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属(Quercus subgen. Cyclobalanopsis)
ブナ科

放射孔材で，道管壁の厚さは中庸～厚く，横断面では楕円形，単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

4　考察

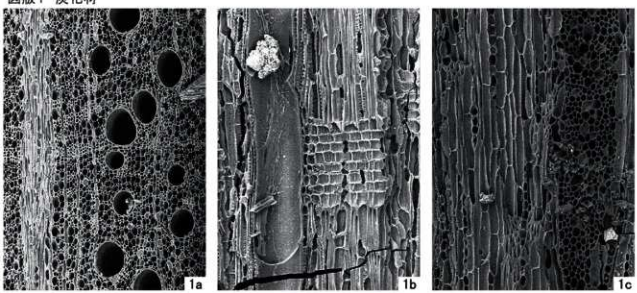
竪穴住居跡1号の埋土中から出土した炭化材は，広葉樹のアカガシ亜属に同定された。アカガシ亜属は，暖温帯性常緑広葉樹林中に生育する常緑高木であり，日本に8種（イチイガシ・アカガシ・ハナガガシ・ツクバネガシ・アラカシ・ウラジロガシ・シラカシ・オキナワウラジロガシ）が分布する。木材は，いずれも重硬で強度が高い。炭化材の出土状況と樹種から，柱材として強度の高い木材を選択・利用したことが推定される。アカガシ亜属は，現在の九州地方において，普通に見られる樹木であり，当該期においても周囲に生育し，入手が容易な種類を利用したことが推定される。

文献

林昭三，1991，日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．
伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.
伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所，66-176.
伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.
伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.
伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.
島地謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.
Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E.A.，Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

※）本分析は，パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版1　炭化材



1.コナラ属アカガシ亜属（試料番号1）
a:木口,b:柾目,c:板目

100 μ m:a
100 μ m:b,c

第５章　総括

第１節　弥生・古墳時代

鍛冶園遺跡では，弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる，竪穴住居跡が３基検出された。当遺跡は，戦時中，知覧飛行場が存在した台地の南東端，台地裾部に位置している。後背部は地層堆積状況から急峻な斜面になっていることが確認でき，前方には万ノ瀬川支流の林川により形成された低湿地が広がる。遺構・遺物は，その中間の狭小な河岸段丘に出土する。遺構は調査区に入り込んでくる谷状地形の西側へは広がりを見せず，本体は東側へ延びるものと推測される。

出土遺物

甕形土器は，口縁部屈曲部がシャープで，屈曲部以上の口縁部が短いもの，口縁部屈曲部がやや緩やかで，屈曲部内面の稜線は残るものの，やや緩い稜線となるものも出土する。脚部を見ると曲線的に立ち上がるものも一部見受けられるが，大半は直線的に立ち上がる。松木薗式新相時期と思われるものと，中津野式土器期の特徴を示すものが出土している。

壺形土器は，口縁部が曲線的に外開きし，口唇部をわずかに回まセたり平坦にし，口縁部屈曲部，肩部付近に断面三角形状の突帯を巡らす。底部は明らかな平底を呈するものも見られる。

一方，口縁部が直線的に上方に立ち上がり，胴部に刻みを施した突帯が一条巡るもの，底部は一見丸底に見える10円玉程度の小さな平底をしたものが見られる。いずれも甕形土器同様松木薗式新相時期と中津野式土器期の特徴を示している。

この他に，脚台のつく小型の鉢形土器が散見される。

住居内出土遺物と住居埋土内出土遺物

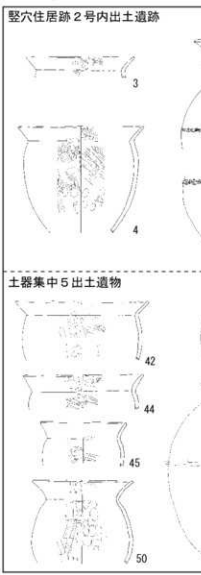
当遺跡で検出された竪穴住居跡２号から住居利用当時のものと想定される遺物が床面付近から出土した。また同２号住居埋土上位において，土器廃棄を想起させる遺物の集中出土が見られた。

竪穴住居跡３号では，埋土中からまとまった遺物の出土が見られた。それぞれの傾向についてまとめておきたい。

竪穴住居跡２号では，床面付近から甕と壺が残存状況良好な状態で出土している。甕形土器は口縁部屈曲部が非常にシャープで，屈曲部以上の口縁部も短く，松木薗２式（中園1997）の特徴をよく残している。壺形土器は口縁部も頸部が太く短いが，同一個体と思われる一条の刻み目を施す突帯が巡る胴部片以下を見ると，松木薗２式の典型的な壺とは異なり，10円玉程度の小さな平底を呈し，松木薗２式～中津野式古段階の過渡期的様相を示している。これがセット関係を示しているのであれば，甕形土器と壺形土器の形態変異に若干の時間差があるものと想定できる。またこの他に磨製石鏃，石包丁片，砥石が出土しており，弥生的様相を残した状態と言うことができよう。

次に竪穴住居跡２号埋土内上位の土器集中から出土した土器について見てみる。検出状況は竪穴住居跡２号の直上埋土中で，おそらく住居跡が完全に埋没してしまう前の窪地の状態であった時期に堆積したものと考えられるものである。

出土している土器は，甕形土器は口縁部があまり長くなく，口縁部屈曲部の稜線が鋭くなっており，中津野式土器の特徴を備えたものがほとんどである。壺形土器も同様で，口縁部が緩やかに外弯するものと，わずかに外反する短い口縁をもつ，突帯を付さない胴部の丸い，C４ａ型式（中村1987）の中津野式土器の特徴を備えたものである。



竪穴住居跡２号内出土遺物，土器集中５出土遺物比較
（図面1/8，54のみ1/16）

しかし，底部を欠損するが，ほぼ完形に復元できた大型甕は，丸みを帯びる胴部に断面四角形の突帯が一条巡り松木薗式土器古相の大型甕B（本田1993）の特徴を示している。大型甕Bは阿多貝塚で埋葬用として使用されたものが一例報告されているが，その他の出土例はいづれも集落内からの出土で，今回も集落内からの出土である。今回の出土も日常的に使用された大型の甕が長期間にわたり使用され，土器型式が変化した後に，役目を終え廃棄されたものと考える。

その他の出土遺物の傾向

出土した遺物の全体的な傾向をみると，鍛冶園遺跡出土の土器は松木薗２式～中津野式古段階の時期に相当すると考えられる。

しかし，中津野式土器主体の遺跡ではあるが，遺跡内出土の土器組成の特徴として，小型器種が少ないこと，中津野式土器段階から安定的に認められる大型の高坏が皆無であることがあげられる。古墳時代初頭というよりは弥生時代後期的な印象を与える器種組成である。

出土遺構

弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構は竪穴住居跡が３基，帯状硬化面が二条出土した。

竪穴住居跡１号は，ほぼ床面からの検出で一部は調査区外へ延びるため全容を伺うことはできなかった。竪穴住居跡２号，３号はともに西側に２カ所の張り出しを持ち検出面からの深さも床面まで50～60cmとほぼ同程度であった。本体の規模は３号が１mほど大きく形状もしっかりしている。２号，３号は東西軸を意識した住居構築をしており，同じ規範に則った構築をしていることが想定される。

１号住居内からサンプリングした炭化物の年代測定では，54～122calADの年代が得られている。測定年代の時期の遺物こそ出土していないが，１号は住居の軸が２，３号と異なっていることから，やや古い年代のものである可能性も否定できない。

第２節　中世・近世

中世・近世については絶対量が多くはないが，段丘端部からやや後背地寄りまで，遺構・遺物の出土が広がりを見せる傾向が伺える。近世以降の耕作や削平のため遺物については，原位置から移動をしてしまったことは，当然考えられるが，遺構については明らかに段丘端部よりも奥まった部分に大半が検出されており，造成等により生活空間が広がりを見せていたことが推測される。

出土遺物

未掲載遺物を含む遺物総数が121点と少ないが，時代の特定できる中国産陶磁器から14ｃ後半から16ｃの年代が想定される。出土した遺物は，土師器の坏，青磁の碗，皿，白磁の皿，青花の碗，皿等である。その他に，瓦器の茶釜，茶釜の蓋，火鉢なども出土している。日用雑器と考えて良いであろう。

しかし１点，天目碗の口縁部が出土しており，鍛冶園遺跡西側に所在する川畑城跡（中世）との関連性も考慮に入れておく必要があるかもしれない。

出土遺構

中世・近世と考えられる遺構はかまど状遺構３基，焼土跡１基，土坑１基，ピット群が検出されている。

かまど状遺構は検出された３基とも南北方向に長軸をとっていて，構築当時の規則性を想起させる検出状況である。いずれも北側にかまど本体と考えられる焼土壁，焼土塊が集中し，南側に灰出しと思われる掘り込みが延びる。かまど状遺構１号理土中からサンプリングした炭化物の年代測定では1306～1397calADの年代測定値が得られており，出土している遺物と比較すると若干古い年代となっている。

土坑は，本文中でも触れたが埋土掘削中に湧水が始まり，遺構側壁が崩落するため，作業の安全を考え，途中で掘り下げを中断した。円形の掘り込み，アカホヤを掘り抜いたところで湧水があることなどから井戸の可能性を指摘しておきたい。調査中，井戸枠の痕跡等がないか注意深く観察したが，最後まで確認することはできなかった。

ピット群は，規則性を持ったかまど状遺構の検出状況から，東西南北を意識したピット配列がないか，かまど状遺構の上屋にあたるピットが無いかなど様々な角度から建物痕跡を探ってみたが，最後までピット配列を確認することはできなかった。

（参考文献）
中園　聡　1997「南部九州地域弥生土器編年」『人類史研究』第９号
中村直子　1987「成川式土器再考」『鹿大考古』第６号
本田道輝　1993「鹿児島県下の弥生後期土器」『鹿児島考古』第27号

写 真 図 版

①遺跡調査前風景　②D－3～7区西側土層断面　③G－1・2区東側土層断面　④C～G－2区北側土層断面

調査前風景及び土層断面